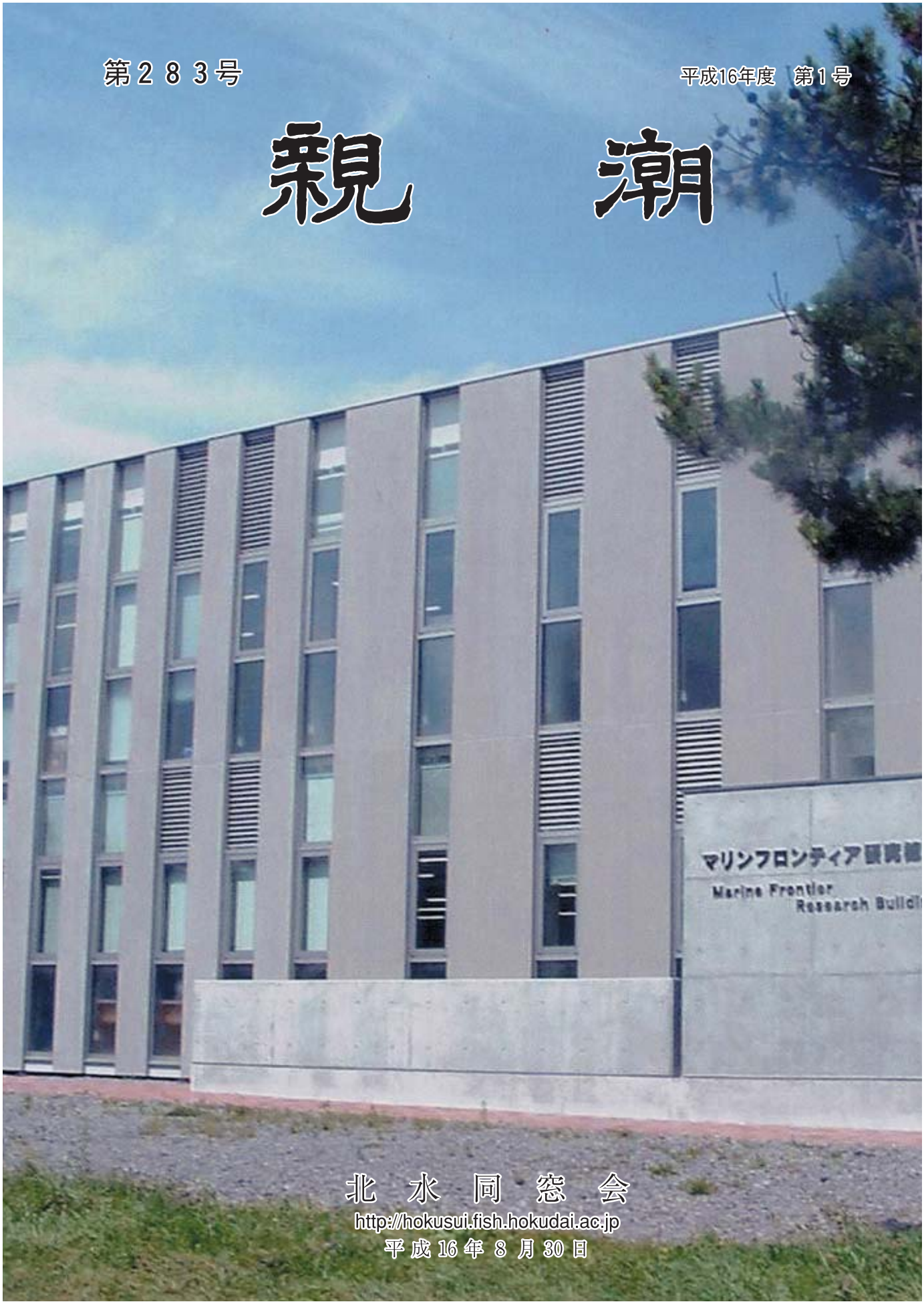
第２８３号

平成16年度　第１号

親　潮



北　水　同　窓　会

http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp

平成16年８月30日

食文化の急速な国際化に伴い
水産総合商社を目指す道水

株式会社　道　　水

代表取締役会長　髙　野　洋　藏（24年製造科卒業）
代表取締役社長　髙　野　元　宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本　　社	函館市豊川町27番5号	TEL(代)	0138)22-7136	FAX	0138)22-3777
はこだて工場	大野町字清水川142番24号	TEL	0138)77-2200	FAX	0138)77-1800
韓国支店	大韓民国釜山廣域市中區中央洞四街53-17（第一火災ビル9階）	TEL	82-51-462-2456	FAX	82-51-462-1567
東京営業所	東京都港区芝浦4丁目16番36号（住友芝浦ビル）	TEL(代)	03)3451-0194	FAX	03)3451-1945
札幌営業所	札幌市中央区北12条西20丁目1番26-301号（第2丸果ビル）	TEL	011)640-7822	FAX	011)640-7833
仙台営業所	宮城県仙台市榴岡4丁目5番24号（第一パークビル2F）	TEL	022)791-7017	FAX	022)791-7018
長岡営業所	新潟県長岡市台町1-8-26（グリーンピア台町）	TEL	0258)31-0231	FAX	0258)31-0232
名古屋事務所	愛知県名古屋市港区小碓3丁目126番地（丹羽マンション2棟231号）	TEL	052)389-5775	FAX	052)389-5775
中国大連事務所	中華人民共和国遼寧省大連市中山区祝賀街35号（錦联大厦1710号）	TEL	86-411-8252-7815	FAX	86-411-8252-7912
現地法人	DOHSUI AMERICA, INC. 4209, 21st. West Suite 305 Seattle WA98199-1271 U.S.A.	TEL	1-206-284-8939	FAX	1-206-284-9273

インターネット検索キーワード⇨「もう学力低下なんて言わせない」

「鴻　野　　勲」



発想転換!!
頭で考えて解く算数から
目で見て解く算数へ

解き方・ポイントなどを詳説した例題など、
500を超える精選問題

30年来の塾講師の実績をもとに算数を
得意科目にするための方法を「くりゃあー」解法
として発表。問題とその解法のポイントを多く
の図解を交えて分かりやすく説明した参考書。

著者：鴻 野　　勲
（昭和42年 製造学科卒業）

第 85 回（2005 年）北水同窓会定期総会
主管 愛知県支部に決定
来たれ名古屋へ、愛知万博へ！

去る 5 月 18 日の北水同窓会総会（東京）で 2005 年の第 85 回総会が、愛知県支部で開催されることが決まり、6 月 5 日の支部総会において正式に受け入れることが了承されました（支部総会報告参照）。概略下記要領で開催します。全国各地より多数の会員の出席をおまちしています。

平成 16 年 7 月吉日
北水同窓会愛知県支部一同

＊ 問 合 せ 先 ＊

顧　　問 ― 野畑順二（24セ）TEL : 0562-32-0950
支 部 長 ― 深谷　勲（36セ）TEL : 0566-21-1330 FAX : 0566-21-1533
E-mail : iso-fukaya@vodafone.ne.jp
幹 事 長 ― 三栗　茂（39ギ）TEL : 0562-33-4704
E-mail : mtkr-sgr@ma.medias.ne.jp
副幹事長 ― 藤井洋治（42ギ）TEL & FAX 052-531-3994
E-mail : UGG43661@nifty.com

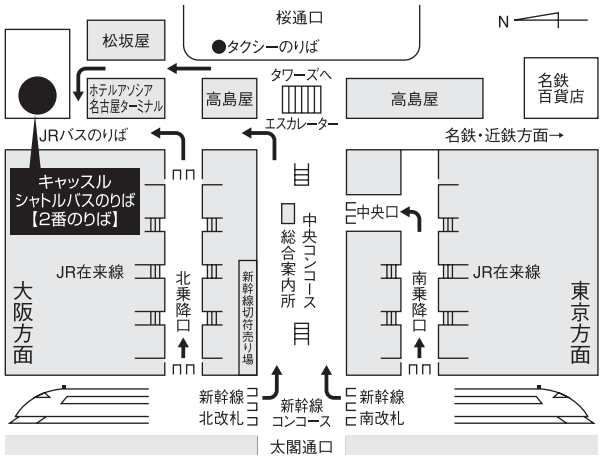
＊ 開 催 要 領 ＊

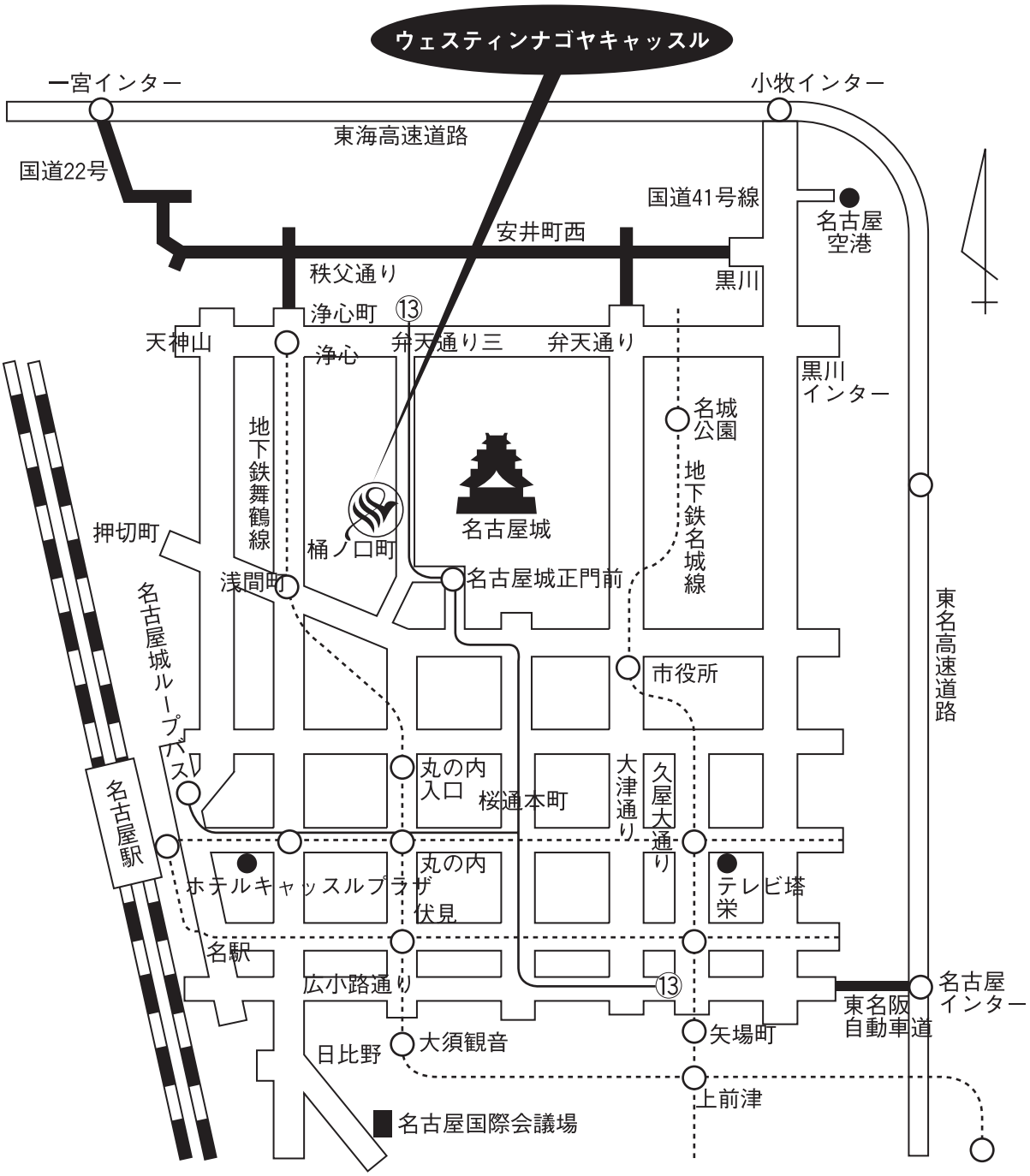
● 日　　程　2005 年 5 月 14 日（土）　● 受 付 PM1:30 から
● 総会・懇親会・その他　PM 2 : 00 ～ PM 5 : 30　● 会 費 8,000 円
● 会　　場　ウェスティンナゴヤキャッスル（裏面地図参照）
〒451-8551 名古屋市西区樋ノ口町 3 -19
☎ 052-521-2121

● 会場へのアクセス

直通シャトルバス（無料、右図参照）
JR 名古屋駅 JR ハイウェイバスのりばより
JR ナゴヤ駅発：10 : 00 から 19 : 00 まで
ホテル発　　：10 : 30 から 19 : 30 まで
（各 30 分間隔）

地下鉄　鶴舞線　浅間町駅 下車
市バス　栄⑬系統　樋ノ口町 1 丁目下車




ウェスティンナゴヤキャッスル
一宮インター
小牧インター
東海高速道路
国道22号
国道41号線
名古屋
空港
安井町西
秩父通り
黒川
浄心町
⑬
天神山
浄心
弁天通り三
弁天通り
黒川
インター
名城
公園
地下鉄舞鶴線
地下鉄名城線
名古屋城
押切町
桶ノ口町
浅間町
名古屋城正門前
名古屋城ループバス
市役所
東名高速道路
丸の内
入口
桜通本町
大津通り
久屋大通り
名古屋駅
ホテルキャッスルプラザ
丸の内
伏見
テレビ塔
栄
名駅
広小路通り
⑬
名古屋
インター
東名阪
自動車道
矢場町
日比野
大須観音
上前津
名古屋国際会議場

親　　潮　（第２８３号）

目　　次

お　願　い
会費納入のお願い
同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い
北海道大学水産学部同窓会ホームページのおしらせ
ご　挨　拶
幹事長就任にあたって……猪上　徳雄（41セ）…1
定年退官の挨拶……西田　清義（38セ）…3
定年退官のご挨拶……烏野　慶一（特）……4
定年退職のご挨拶……見上　隆克（41ギ）…5
本部だより
「21世紀ＣＯＥプログラム」に採択……5
近況報告……山内　晧平（44ゾ）…6
第84回定期総会報告……7
定期総会を終えて　一般経過報告より……中尾　　繁（40ゾ）…15
北海道大学連合同窓会設立とお願い……猪上　徳埴（41セ）…16
会員の受賞
菊地有一氏（24エ）黄綬褒章を受賞……高橋　　孝（24エ）…16
竹田正之氏（31セ）瑞宝小綬章を受賞……17
絵面良男氏（37セ）平成15年度日本水産学会賞功績賞受賞……吉水　　守（47食）…17
向井　徹氏（61ギ）平成15年度日本水産学会賞田内賞受賞……飯田　浩二（51ギ）…18
寄　　稿
クラーク博士の曾孫・スワード市長クラーク氏との偶然の出会い……大園　雍彦（31セ）…18
コイヘル奮闘記……山下　正晶（平３ゾ）…23
アクアラング部……小西香菜子（学生会員）…23
支部・会員だより
北水会長崎支部送別会報告……大坂　幸男（63ゾ）…25
北水同窓会三崎支部総会と懇親会報告……西　　哲雄（24エ）…25
平成16年度東京支部総会報告……下村　政雄（41ゾ）…26
埼玉県支部総会と懇親会報告……白井　純二（48食）…27
北水同窓会愛知県支部総会報告……藤井　洋治（42ギ）…27
平成16年度函館支部総会・懇親会報告……28
新制遠漁１期の集い（平成16年３月３日）……星野　　晫（23エ）…28
北水46会……水上　武司（46食）…29
八紘会（昭和17年卒の同期会）関東地区の集い……添田　　恒（17ヨ）…29
2004年二五会の集い……廣崎　芳次（25ゾ）…30
連続ハプニング　新制３期遠漁会……田中　正晴（25エ）…30
七洋会　第23回の集い……山井　年男（16後ギ）…32
長靴会　卒業50周年記念大会　函館で開催……棚部　保徳（29セ）…33
北水26年卒漁業科最後の同級会……中森　正義（26ギ）・鈴木　信夫（26ギ）…34
北水二三製会「喜寿の会」に参加して……高橋日出彦（23セ）…35
追　　悼
大先輩今田先生（７ギ）逝く……前田　辰昭（26ギ）…36
高木光造さん（16後セ）を悼む……上野　元一（16後ギ）…37
平岩　節先生（特）の死を悼む……坂本　有隣（29エ）…38
会員死亡通知……39
ご　案　内
平成16年度大阪府支部講演会・総会および懇親会のご案内……入江　和彦（45ギ）…40
新刊紹介　田口一夫著「黒マグロはローマ人のグルメ」……永沼　博文（25エ）…40
学内ニュース
学位取得者と論文題目……41
会員異動……41
平成15年度進路状況一覧……42
有朋自遠方来不亦楽呼……44
表紙写真説明……44
編集後記……45
投稿規定……45

お　願　い

◆会費納入のお願い◆

北水同窓会の年会費（4,000円）の納入をお願い申し上げます。

本部の運営は、この同窓会費ですべて賄っておりますが、近年不況のためか会費の納入率が低下しております。会員の皆様におかれましては本会の運営維持のため今年度分からでもぜひお納め頂きたくお願い申し上げます。なお、過去の未納分は問いません。

また、昨年末に**平成15年度北水同窓会会員名簿**が発行されましたので、まだ入手されていない方は**至急今年度分の会費を納入**してくださるようお願い申し上げます。会員名簿は会費を納入された方に無料で配布致します。

会費納入の際には、本号巻末に綴じ込みの郵便振替用紙をご利用下さい。また、郵便局にてご自分で振替用紙にご記入される場合には、下記の振替口座番号および加入者名をご記入下さい。併せて郵便自動払込制度をご利用されたい方は、本部に自動払込利用申込書がございますのでご用命ください。すでに郵便自動払込の手続きをされている方は、毎年７月31日に引き落としになりますので通帳の残高の確認をお願い致します。

振替口座番号：０２６２０ー５ー５８１
加入者名：北水同窓会

なお、会費納入方法のお問い合わせ、住所変更等のご連絡につきましては北海道大学水産学部同窓会（〒041-8611　函館市港町3-1-1、電話＆ＦＡＸ：0138-42-3681、E-mail：hokusui@hotweb.or.jp）で承っております。電話受付時間は午前９時から午後３時までです。

同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

同窓会誌「親潮」への広告を募集しております。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募も歓迎しております。同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位による広告主の開拓を切にお願いいたします。広告は随時受け付けており、広告料は親潮１年分について、以下のようになっております。

表紙裏面または裏表紙の両面

１　頁	８０，０００円
1/2 頁	４０，０００円

普通頁

１　頁	６０，０００円
1/2 頁	３０，０００円
1/3 頁	２０，０００円

北海道大学水産学部同窓会ホームページのお知らせ



皆さま、北水同窓会にホームページがあるのはご存知ですか？

北水同窓会では、平成15年度からインターネットホームページを開設しています。ホームページへのアクセスには、お手持ちのインターネット接続されているコンピューターから、http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp とご入力ください。

ホームページには、「お知らせ」や「投稿掲示板」、「写真集」、「リンク」などの項目がございます。また、同窓会会員の皆さまに最新の情報を提供できますよう、Topics欄を設けるとともに、「投稿掲示板」を通して同期会や同窓会などの通知や報告を行っております。

ホームページの充実を図るためにも、ホームページ掲示板への投稿文書、写真等を募集しております。同期会の呼びかけ、同窓会の報告、支部会の活動状況など、北水同窓生の交流の場として「投稿掲示板」をご利用ください。依頼文書や写真などは、下記メールアドレスへお送りください。なお、掲示板への掲載可否については本ホームページ管理者において決定させていただきますので、予めご了承ください。公的運用を目的とした掲示板ですので、個人的な宣伝活動、商業目的の宣伝活動、誹謗中傷記事などについては固くお断りいたします。

同窓会本部では、ホームページをより良きものにしていきたいと考えております。ホームページに関するご意見、ご感想などをお寄せください。

皆さま、北水同窓会ホームページを是非ご訪問ください！！

ホームページに関するご意見・ご感想は
alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp
までお願いします。

ー◆　ご　挨　拶　◆ー

幹事長就任にあたって

猪上　徳雄（41セ）



北水同窓会の皆様には日頃から会の運営にあたりご高配を賜りありがとうございます。

さて、平成16年度から中尾繁幹事長の後任として歴史ある北水同窓会の幹事長を引き継ぐことになりました。また、平成19年に創基100周年を迎えることもあり、その責任の重さを感じています。第84回定期総会で承認をいただきました事業を推進するために本部幹事会一同は努力してまいりますので、皆様の一層のご支援をお願いする次第です。

今期の幹事会の大きな課題は、（１）特に、ここ数年の同窓の会費納入率の漸減傾向に対する解決策を示し、向上させること、（２）創基100年に向けた取組みを開始することの２つです。

【会責納入率について】

先ず、同窓会の会費納入率の低迷は全国的な傾向ではありますが、そのような中で、特に、若い卒業生にとって同窓会は何故魅力がないのかを考えて見る必要があります。100年になろうとする歴史ある母校を卒業して後、母校のことや他の同窓のことには何も興味がないという人は極めて少ないと考えています。同窓があらゆるところで関連していることは、今のような多様で複雑な社会生活の中であっても感じているはずです。大学が固定化した体制の中で長く教育研究を継続してきたことが、大学の活力を失わせ、昨今の一連の大学の構造改革へ繋がったことと同じように、同窓会についても長年にわたって自動的に入会して会費を納めてくださいとお願いするだけであったため、納入率の低下を引き起こしてきており、解決に向けた具体策を求められる時期にさしかかったといえます。会費納入率の低下は、同窓の皆さんが母校に顔を向けてくれるような活力と魅力を大学（母校）が十分に発信してこなかったことにも起因します。大学が社会の期待にどう応えているのかを目に見える形で説明して活力を示し、社会（同窓）に感動が湧くようにしなければなりません。大学では、入学してくる学生に「問題解決型」教育を強く打ち出しています。我々幹事会としても母校の誇れる魅力を引き出し、同窓の方々に感動を伝えることで多少なりとも問題を解決できるかもしれません。問われているのは、幹事会の問題解決能力といえます。今までの固定した考えを壊してみる勇気が必要と考えますが、今すぐ可能なことは、データを集め、解析し、その上でできることから地道に実施することがもっとも近道と考えています。（解決策については、別掲「国立大学法人化とこれからの同窓会」を参照願います。）

【創基100周年について】

次に、創基100周年については、母校が計画していることに積極的に協力体制を構築することはもちろんですが、一方で同窓がどのような考えを持っているかも伝わる仕組みが必要と考えています。そのためには、各支部単位の集まりなどに参加して双方向に情報が伝わるようにできればと考えています。その観点からも、同期会、支部総会などの開催については事務局にご連絡いただきたいと思います。

創基100周年という大きな節目に当たり、今までの100年を単に振り返るだけでなく、さらに次の100年に夢を託すことで母校をおおいに盛り立てる機会にしたいものです。母校ではそのための記念事業を計画している段階ですが、現在の経済状況を考えるとその規模を予想し難いことが、具体案提示の遅れている大きな要因となっています。記念事業を行うとすると、同窓会としても平成17年春の定期総会では記念事業後援会を設立して、直ちに行動に移す必要があります。その折には、同窓各位の絶大なご協力をお願い致します。

情報が分かり次第本ホームページに掲載する予定でいます。「親潮」発行は年２回ですので、情報が遅れがちになりますので、インターネットを利用できる方はぜひ北水同窓会のホームページで最新の情報をご確認ください。

国立大学法人化とこれからの同窓会

【今、同窓会が問われている】

平成16年度からの国立大学から国立大学法人化に伴い全国の大学ではそれぞれ連合同窓会を発足させて同窓会組織の強化を図っています。北海道大学においても平成16年４月14日から北海道大学連合同窓会が発足しました。我々の北水同窓会も第84回定期総会で連合同窓会に参加することをご了承いただきました。何故でしょう。国立大学法人化とどう関係するのでしょうか。同窓の皆さんを通して北海道大学が社会に対しで情報発信し、或いは社会ニーズを把握することが非常に重要な意味をもつことになるからです。疑問に感じている方もおられるかと思いますので、大学改革と関連して少し説明したいと思います。

【一連の大学改革とは？】

１．国立大学の法人化によるシステム改革

民間的経営手法の導入によるトップ・マネジメントを実現し、自主的・自律的で活力ある運営を行う。人事面でも非公務員型を取り入れ、教員の一層の流動化を進める。財政的には、実績に応じて資金配分が行われ、自助努力による外部資金の導入が求められる。実際には、中期目標・中期計画の立案とそれに沿った実施と評価が行われる。すなわち、いいと思うことは各大学で実施して下さい。学生が集まるような魅力的な大学にして、社会から高い評価が得られるような大学にしなさいと解釈できます。

２．大学の国際競争力の強化

国際競争力のある世界水準の研究教育拠点を形成する。そのために大学院重点化を行い、21世紀ＣＯＥプログラム（遠山プランの「トップ30」）などで重点支援がスタートしている。すなわち、世界の大学を相手に競争できる研究をやって、それに応えることができる人材を養成して下さい。そのために先ず、国内の同じ分野で競争して優れた提案には、初動資金を支援しますので、どんどん競争力をつけなさいと解釈できます。平成16年度北海道大学大学院水産科学研究科が中心となって「革新的な学術分野」で申請していた、『海洋生命統御による食糧生産の革新』が“21世紀ＣＯＥプログラム”に採択されたことは、世界水準の研究教育拠点を形成できる実績が認められたといえます。

３．大学の質の保証と向上

社会的要請に柔軟に対応できる質の高い大学院教育を行える体制を構築するために、事前規制を緩和して事後評価をキチンと行う。第３者評価を実施する。すなわち、社会が必要とする質の高い人材を養成するための良い組織を考えて実施して下さい。本当にそのような組織であったかどうかは別の第３者の組織で評価しますということです。

４．産学官連携や知的財産戦略の推進、大学の社会貢献機能の拡大

研究成果を社会に還元、産学官連携の強化などを通して、大学の社会貢献が目に見える形で説明責任を果たす。すなわち、納税者が納得できるよう、社会に貢献できる大学を目指して下さいということになります。

【国立大学法人化と同窓会】

このような改革と国立大学法人化によって、大学は常に社会（在学生や同窓）から評価を受けながら、社会とも連携し、国民（同窓）に説明責任を果たしていくことを明確にしました。この説明に必要な資料には、卒業して社会で活躍している同窓に関することも含まれることから、評価される対象として同窓の皆さん（在校生の質も含む）も関連するのです。このように考えますと、同窓は納税者として説明を受ける側でもあり、卒業して活躍している一人として評価される側でもあります。大学（母校、そこにいる教員）、存校生、同窓の皆さんの３者は同じ劇場の中で、演者（評

価される側）になったり観客（評価する側）になったりすることになります。すなわち、一体となって行動することで向上することが求められるのです。

一部では、学歴無用論もありますが、一般社会では依然として履歴書に学歴を書く欄があり、社会生活の中ではまだまだ何らかの形で学歴（出身大学・学部）がついて回ります。そうした社会で母校を卒業した同窓が国際的な競争に打ち勝って、教育研究面で社会的に高い評価が得られているのか。社会ニーズ、新しい教育ニーズとして求められる人材を輩出しているのか。母校、在校生そして活躍中の同窓の皆さんが、気にならないとは言えません。大学（母校）は自分の大学に魅力を感じて入学した学生に対して責任をもって教育し、社会が必要とするところに送り込むことは今まで以上に重要となります。

そこで、送り出した人材の実社会での評価を大学・学部（母校）にフィードバック（アンケート調査など）するためには良いシステムが必要になります。在校生、同窓のための求人・就職の情報発信（インターンシップの実施の充実など）や情報交換のためのネットワーク構築も今後必要になるでしょう。これらの目標を達成するために母校、在校生、同窓の３者が緊密な連携を取らなければなりません。水産学部にあっては、その要になるのが北水同窓会というシステムなのです。大学が法人化によってシステム改革を終えましたので、同窓会にあっても時代に対応できる新たなシステムに変える必要に迫られているといえます。そして、どこが主体性をもってそれを行うかです。

【母校を応援したくなる仕掛け】

同窓の皆さんは、今、母校で何が先端的な話題なのか、以前の話題はその後どうなったのかが気になるところではないでしょうか。今回のように21世紀ＣＯＥプログラム（遠山プランの「トップ30」）が採択になったことは、素晴らしいことであり、誇りうることです。このように目に見える形で社会に貢献し、活躍しているとなれば、母校もなかなか頑張っているということで、応援・支援したくなるキッカケとなり、そのことが会費納入ということに結びつくかも知れません。

そのためには、母校がどんな形で社会に貢献しているのかという新しい情報を常に早く発信する必要があります。すなわち、同窓の皆さんが応援したくなるキッカケがいるのです。その役目は本部幹事会にあり、北水同窓会のホームページはもちろん他の手段でも情報が流れる仕掛けが必要となります。同窓の皆さんが強力なサポーターとなって、母校、在校生を含めて存在感のある北水同窓会へと変わることが当面の課題と考えています。母校、在校生、同窓の皆さんの三者が緊密に連携を取って、一体感を醸成しなければなりません。遠山プランの「トップ30」に採択されたことや創基100周年はそのための最高の機会となるでしょう。そして、この機会に次の100年のために夢を託そうではありませんか。

以上、北水同窓会の幹事長就任挨拶とは別に、これからの同窓会のあり方と会費納入率向上に向けた解決策の一端を述べさせていただきました。

定年退官の挨拶

西田　清義（38セ）



本年３月末日をもって定年退官いたしました。皇太子ご成婚、王選手プロ入団などのニュースに沸く昭和34年４月に北大に入学し、以来44年間を北大に在籍させていただき、そのうち36年間を教官として勤務させていただきました。この間、よき先生、先輩、仲間、関係諸氏に恵まれ、その方々のお世話になりながら、曲がりなりにも任を果たして今日を迎えることができましたことを衷心より感謝いたしております。

私の研究歴は、化学が好きで選んだ旧製造学科の水産高分子化学講座で魚貝類の低分子核酸成分分析からスタートしましたが、昭和47年からの約２年間の米国出張後は魚貝類の筋肉タンパク質、特に同筋肉に独特なタンパク質の分子構造や機能の解明、さらに最後の約10年は水産加工の重要な要因である魚肉ゲル化のメカニズムを解明するための魚肉タンパク質の基礎的研究も合わせて行いました。この間、共同研究を行った先生や学生諸君とともに研究に没頭でき、それらの成果が水産学会や他の学会で高い評価を受けたことは光栄なことでした。その一方、このような環境のもとで勉学に励み、社会に巣立って行った多くの卒業生諸君が社会で立派に活躍していることを見聞きできるのも教師冥利に尽きるもので、嬉しくもあり、これからの楽しみでもあります。

昭和30年代から理工系を中心に改組拡充された国立大学は、近年の国家財政危機を発端にした厳しい環境に置かれることになり、再編、縮小もありうる厳しい状況に直面することになりました。４月から国立大学は法人化され、水産学部、大学院の有り様にも大変革がもたらされつつあります。構成員各自の懸命な努力によりこの難局を克服して、日本の基幹大学である北大の部局として益々発展して行くことを切に希望しております。

終りになりましたが、本同窓会々員の皆々様の末永いご健勝とご多幸をお祈り申しあげます。

定年退官のご挨拶

烏野　慶一（特）



学生時代から憧れの北の大地へ昭和57年３月末、神戸商船大学から転勤してきました。最初は国内留学のような気分でおりましたが、仕事にのめりこみ、思いがけず22年間の長きにわたりお世話になって、気がつけば退職を迎えるまでになっていました。

関西育ちで旅行以外は北国を知らず、気候風土の違いに戸惑うばかりで、『えらいところに来たなあ』と思ったものです。そのうちに高橋広弥先生や川島利兵衛先生、米田国三郎先生等の方々の温かい励まし、ご指導のおかげでエンジンがかかり動き出しました。

私の専門は船舶工学で、こちらでは漁船工学、特に基礎原理は大事と思い学生諸君には一所懸命教えましたが、もう少し応用まで広げるべきだったかと思っております。

研究面では波浪中での漁船の６自由度運動シミュレーション、漁船運動の位置自動制御装置の開発を目指し、学内外で色々の方々と一緒に仕事ができました。磯舟、小型漁船の操業操船ボイスコントロール装置の開発研究、カーボングラスファイバーを用いたスーパーマリン高速漁船の開発研究、小型高速漁船の水槽実験法と解析法の開発研究、魚追跡ロボット船の開発研究と次々に面白い仕事に恵まれ、本当に幸せでした。その上、うしお丸の代船建造計画チームにも参加させていただき新造船竣工に立ち会うことができました。そして最後の仕事になった漁船の操縦流体力モデルの研究には寝食を忘れて全力投球できたと自負しております。

無事に退職できました今、全力疾走の後のほっとした虚脱感に浸っております。

公私にわたりここまで支えていただいた皆様方に心から感謝申し上げますとともに、新しい時代に向かって北大水産学部が今いっそうのご発展を遂げられますようお祈り申し上げます。

定年退職のご挨拶

見上　隆克（41ギ）



昭和41年、北大水産学部漁業学科に勤務して以来、37年４ヶ月に及ぶ勤めを終え、本年３月31日をもって定年退職致しました。

漁業学科と遠洋漁業学科とが一つになって、11の小講座をもつ新しい漁業学科が誕生しときに勤務しました。その翌年、水産機械学講座は漁業機械学講座に名称変更されました。平成７年に学部改組がされて生産システム設計学講座になるまでの28年間、平成12年の大学院重点化による生産工学講座を経て９年間、漁業機械に関する教育・研究をさせていただきました。

研究テーマは、フィールドから見つけるものであると諸先生から言われ、現場調査や漁業者からの聞き取りなどを続けて教育・研究に生かすことができました。この間、漁業者の皆さん、漁協、官公庁、水産関連会社、機械メーカの皆様、特にこれらの同窓の皆様には大変なお世話をいただきました。この紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

70年代の後半から、生産管理学の欠如、経営工学科での生産技術学の軽視、生産の総体的な学問の必要性から、「生産システム工学」という学問が出て、大きな影響を受けました。漁業機械も、それまでの一度に大量の魚を漁獲する力まかせの機械から、水産資源の再生産維持に配慮し、水産生物の生理活性を弱めることなく、品質を劣化させずに素早く処理する機能を有し、安全で安価な漁業機械システムの設計が求められるようになりました。

しかし、漁業機械システムの総体を形作るには、機械と他の要素との個々の研究の積み重ねが必要であり、個から総体へ、総体から個への体系化の取り組みが弱かったことを反省しております。しかも、現場での機械の実用化が先にあって、その後を追いかけながら研究を続けることが多かったように思います。このため、漁業機械システム学の体系化もできないまま定年退職を迎えてしまいましたが、悩みながらも自分の好きなことができたことは幸せなことであったと思います。これもひとえに、教職員の皆様のおかげであり、また、学生とともに学べたことによるもので、ご指導、ご厚誼いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

国立大学法人となり、大学をとりまく環境は厳しくなっていきますが、水産学に対する貢献と社会への還元のために、北海道大学大学院水産科学研究科・水産学部の更なる発展をお祈り致します。また、同窓の皆様のご健勝となお一層のご活躍を祈念して定年退職の挨拶といたします。

ー◆ 本部だより ◆ー

「21世紀COEプログラム」に採択

北海道大学大学院水産科学研究科が中心となって申請していた、『海洋生命統御による食糧生産の革新』が平成16年度“21世紀ＣＯＥプログラム”の「革新的な学術分野」で採択されました。

このプログラムは平成13年６月に当時の遠山文部科学大臣が打ち出した「大学の構造改革の方針」の一つで、通称「遠山プランのトップ30」構想と呼ばれています。日本の大学を国際競争力のある世界水準に押し上げるために、大学の先駆的な研究を選択して重点的に資金を配分することを目的としたものです。平成14・15年度は10分野（生命科学、化学・材料科学、情報・電気・電子、人文科学、医学、数学・物理学・地球科学、機械・土木・建築・その他工学、学術・複合・新領域など）で審査を行い、1075件の申請から246件（85大学）が採択されています。平成16年度は「革新的な学術分野」という一つの分野の募集で、320件の申請から28件（24大学）が採択され

ました。その中の一つが、山内晧平研究科長がリーダーで水産科学研究科・水産学部が中心となって申請していた本拠点プログラムです。すなわち、水産学部の同窓の皆様が長年にわたって行ってきた教育研究の積み重ねが結実し、世界水準の研究教育拠点を形成できる体制が整ったといえます。

国立大学法人となった水産科学研究科・水産学部としては、大きな研究プロジェクトの確保が望まれていました。今回、大学の構造改革の方針の一つである世界水準の研究教育拠点育成に採択されたことは、大きな意味を持つといえます。同窓各位にご報告するとともに一層のご支援をお願い申し上げます。

近　況　報　告

水産科学研究科長　山内　晧平（44ゾ）

大学院重点化後

母校は平成12年度から大学院中心の新しい組織（大学院重点化と同時に大学院改組も実施）としてスタートし、約４年を経過しました。それまでの経過は親潮第272号に当時の絵面良男（37セ）研究科長が近況報告されています。ここでは、その後大学がさらに大きく変化をしている状況について報告したいと思います。重点化完了の翌平成13年６月に「大学（国立大学）の構造改革の方針」（遠山プラン）が出されました。この骨子は、（１）国立大学の法人化によるシステム改革、（２）大学の国際競争力の強化（トップ30、現在の21世紀ＣＯＥプログラム）、（３）大学の質の保証と向上、（４）産学官連携や知的財産戦略の推進の４つで構成されたものです。そしてこれらは既に実施され、ある程度まで進行している状況にあります。その達成スピードは想像以上に速いものがあります。

国立大学は、平成16年４月から国立大学法人に移行しました。「21世紀ＣＯＥプログラム」は、平成14年度から３年度にわたり11分野で申請・選考が行われ、先行プログラムは既に開始されています。平成16年度北海道大学大学院水産科学研究科が中心となって「革新的な学術分野」で申請していた、『海洋生命統御による食糧生産の革新』が採択されました。大学の質向上は、大学の教育研究について中期目標・中期計画に基づいて、大学評価・学位授与機構による事後評価という形で問われることになります。産学連携は現在いろいろな形で実施され、水産科学研究科においても平成15年度に完成したマリンフロンティア研究棟を中心として進められています。このように遠山プランが提示されてから３年間の短期間でここまで達成されたことは、国立大学時代には考えられないことでした。大学も納税者（社会的要請）に対して、社会貢献が目に見える形で説明責任を果たさなければならないという状況が、後押ししたことが大きい要因の１つとして挙げられます。

この状況はさらに厳しさを増して行くことは間違いありません。少子化の問題も高校卒業者が全員大学に入学可能となる時期が２年も前倒しになり、2007年（平成19年）との予想も報道されました。これに対しては各大学が生き残りをかけて、対応策を打ち出していくことになります。法人化前のように大学が横並びということは考えられません。

平成15年度に実施した外部評価の「水産科学研究科・水産学部外部評価報告書」にあるように、報告書の公表で評価が終了するのではなく、評価の提言に沿って改善を果たしていく責任があります。すなわち、以下の３点です。（１）重点化によるメリットも成果として十分認められるが、一方ではその際に生じた教員組織や教育体制のひずみについては早急な組織改編などで解決すること。（２）学部レベルでも、学科分属のアンバランスを解消するために、学科内容の再編成も含めて検討すること。また、（３）研究活動にあっては、大講座制のメリットを生かすための協力姿勢と意識改革によって、新たな研究プロジェクトを立ち上げること。

以上のような問題点を解消することで、函館圏を中心とした世界の水産科学・海洋科学分野の教

育研究拠点となることも期待されています。（３）については「21世紀ＣＯＥプログラム」の採択で目標の第一歩は達成できたと考えています。

将来計画

平成13年度の自己点検・評価、平成14年度の外部評価をとおして指摘されている問題点（１）および（２）を解決するべく、平成17年度を目処に大学院の組織見直しを継続してきました。すなわち、北海道大学及び水産科学研究科の中期目標・中期計画に謳っている学院・研究院構想を推進することで前述の問題点を解消すると同時に、社会的要請にも応えられると考えています。

現在の大学院研究科再編のやり方では、その組織に固有の教員組織を固定的に編成することから（教員組織と教育研究組織が不可分）、組織が膠着化し、新研究科が発足した時期には、既にそれ自体が陳腐化する事態を招くことになります。新たな学院・研究院構想のメリットは、これを解決できることです。実際には、既存の大学院を研究組織と教育組織に明確に分けることです。すなわち、「水産科学研究科」を研究上の必要により編成された教員組織である「水産科学研究院」と人材養成上の必要に応じて大学院教育組織の柔軟な再編が可能な教育組織である「水産科学院」に再編することにあります。これによって時代に即応し、かつ自律的にその変化に合わせて研究・教育を実施するシステムを構築することが可能になります。しかし、何故そうなるのかのイメージを実感することは難しいかもしれません。

今構想している水産科学研究科の学院・研究院への再編の特徴は、外部評価で指摘された重点化によるひずみを解消すると同時に研究活動の活性化、世界的に活躍できる人材養成を行いうる組織を構築することにあります。そのようなことが本当に可能なのかという声に対しては、そうしなければこれからの大学は生き残れないと言わざるをえません。組織の膠着化を避けながら、昨今の国際情勢変化、科学技術進展に対応した課題解決のために組織改革が喫緊の課題となっています。その時代の社会的ニーズに機動的に対応できる組織にしなければなりません。そのために研究院に時限的研究分野、学院に時限的講座を設置することを考えています。このようにすることによって、（１）基盤的研究分野の充実と新規研究ニーズに機動的に対応できること、（２）大学院並びに学部教育に対する責任の明確化と学生の教育ニーズに応えることができる柔軟な教育組織を構築できるところに新たな構想案の特色があります。

今回の紙面では、理解しがたいかと考えられますので、機会ある毎に説明をさせていただき、次号の親潮ではさらに詳しく解説したいと考えています。学院・研究院構想に引き続いて前述の外部評価の提言（２）にある学部再編の検討に入ることになります。

今回採択されました「21世紀ＣＯＥプログラム」（海洋生命統御による食糧生産の革新）が、完全に達成され、名実ともに世界水準の教育研究拠点となり、平成19年には輝かしい創基100周年を迎えられるよう、私共、水産科学研究科はより良い大学院を目指してさらなる努力を継続いたしますので、卒業生の皆様からの一層のご助言、ご指導、ご鞭撻をいただきたいと存じます。

第84回定期総会報告

北水同窓会第84回定期総会は、平成16年５月18日（火）に、虎ノ門パストラルを会場に、午後６時より開かれた東京支部総会の後、112名（受付簿による）におよぶ会員の出席を得て盛大に開催された。

先ず、石瀬和正会長（22エ）の挨拶の後、議長に下村政雄氏（41ゾ）を選出し議事にはいった。

議案第１号平成15年度事業経過報告および会計決算報告について、中尾　繁幹事長（40ゾ）から一般経過報告の後、本部幹事による各議案の説明があり、これらが一括して承認された。

次に、議案第２号について、平成16年度役員改選案と次回の第85回定期総会開催地を名古屋とす

る提案、連合同窓会への加入及び親潮原稿の依頼についての提案がなされ、これらが承認された。これにより次回開催地は正式に名古屋に決定した。続いて、平成16年度予算案について各幹事より説明・提案があり、承認された。

最後に、次回第85回定期総会開催地に決定した愛知支部支部長の深谷　勲氏（36セ）より挨拶がなされ、終了した。

次に、山内皓平名誉会長（44ゾ）から国立大学法人となった北海道大学の今後についての講演があった（写真１）。



山内皓平名誉会長の講演

総会終了後、午後７時30分頃より開催された懇親会は、東京支部副支部長鉢木和三氏（38ゾ）よる開会の挨拶で始まった（写真２）。司会進行は



東京支部副支部長鉢木和三氏による懇親会開会の挨拶

水産庁若手の和沢美歩氏（平７化）が務めた。

次に、遠路出席した高知支部長の細木忠義氏（17ヨ）、神奈川支部顧問の吉田弘司氏（28セ）、千葉支部長の小泉　守氏（32セ）、愛知支部長の深谷　勲氏（36セ）、稚内支部長の風無成一氏（41ギ）の紹介に続き、参加者の中で東京支部以外からの参加者で最長老にあたる安枝俊雄氏（16ヨ）の乾杯の音頭で懇親会が始まった（写真３）。



東京支部以外からの参加者で最長老にあたる安枝俊雄氏の乾杯の音頭

その中には最長老の遠藤信二氏（13ヨ）、富山県の新支部長になった竹長公彦氏（34エ）や、黒子登美恵氏（平元化）、吉川真理子氏（平12生）ら若手女性会員の姿もあった。

会場全体が会員同士の会話で大きく盛り上がり、楽しい一時であったが、あっという間に経過した。

最後に、寮歌斉唱があり、高津　敏氏（49ギ）の前口上で逍遙歌、小泉　守氏（32セ）の前口上で都ぞ弥生を全員で肩を組み大きな輪になって斉唱した（写真４）。高田俊道氏（60ギ）のエールがあり、元東京支部長で現在上海に在住し水産加工会社などを経営している神山茂郎氏（19セ）が中締めをして終宴となった。

会員への総会案内や会場の準備に多大なご尽力



全員で肩を組み大きな輪になって斉唱した都ぞ弥生

をいただいた東京支部長の鈴木賢一氏（36セ）、同支部幹事長の下村政雄氏（41ゾ）をはじめとする支部幹事の方々、総会に参加された会員の皆様方に心より感謝申し上げ、総会の報告といたします。

文責　木村暢夫（庶務部幹事）

出席者　１１８名（卒業年順　敬称略）

遠藤　信二（13ヨ）
安枝　俊雄（16ヨ）
細木　忠義（17ヨ）
神山　茂郎（19セ）
石瀬　和正（22ギ）
魚田　昭治（23ギ）
高田　信夫（23ギ）
田村　龍彦（23ギ）
服部　晴夫（23ギ）
臼田　正臣（23セ）
太田　庸穂（23セ）
山崎　善種（23セ）
生田　浩三（24ギ）
丹羽　和美（24ギ）
安井　敬一（24エ）
荒木　道夫（24セ）
野畑　順二（24セ）
森脇　　淳（24セ）
圓中　八郎（24ゾ）
高桑　三郎（25エ）
大上　博司（26セ）
宮原　信治（28エ）
真田　博美（28セ）
吉田　弘司（28セ）
小山　　光（29セ）
小高　　洋（29ゾ）
小泉　　守（32セ）
吉村　正昭（32セ）
竹長(木村)公彦（34エ）
石川　享一（35エ）
浅倉　健治（36セ）
石川　光男（36セ）
鈴木　賢一（36セ）
角田　靖雄（36セ）
西川　雄造（36セ）
深谷　　勲（36セ）
平野　勇夫（36ゾ）
熊谷　昌士（37セ）
山成　克二（37セ）
花村　剋己（38エ）
鉢木　和三（38ゾ）
遠山　　明（39ギ）
三栗　　茂（39ギ）
千葉　茂春（39セ）
寺本　紀久（39セ）
鈴木　晟甲（40ギ）
上林　達雄（40エ）
永田　章一（40エ）
三好　邦輔（40エ）
作田　　孝（40セ）
畦地　清信（40ゾ）
中尾　　繁（40ゾ）
畑中　　寛（40ゾ）
山崎耿二郎（40ゾ）
風無　成一（41ギ）
松尾　英彦（41ギ）
常松(小田部)秀則（41エ）
野村　泰造（41エ）
鶴本多次郎（41セ）
那須　次郎（41セ）
下村　政雄（41ゾ）
藤咲(鈴木)豊昭（41ゾ）
藤井　洋治（42ギ）
青木　秀和（42ゾ）
中山　豊光（43ギ）
内中　　汎（43化）
大場　清昭（44ギ）
重田　親司（44エ）
藤井　真一（44エ）
松浦　光紀（44エ）
福永　純治（44食）
稲源　次郎（44化）
山内　晧平（44ゾ）
吉田　　徹（45ギ）
宮島　　嵩（45化）
梶野　　新（46ギ）
吉原　正樹（46ギ）
伊藤　　誠（48ギ）
高津　　敏（49ギ）
辻本　宗央（49ギ）
野村　重光（49ギ）
金澤　時夫（49食）
上居　　隆（49食）
高野富輝夫（49化）
門谷　　茂（50化）
品治　二郎（50ゾ）
渡邊　良朗（50ゾ）
大村　泰治（51食）
木村　郁夫（51食）
矢部　　衛（51ゾ）
久保　　等（54ギ）
寒河江正博（54ギ）
増元　照明（54ギ）
鈴木　　弘（54ギ）
中井　正人（54ギ）
木村　暢夫（55ギ）
長谷　成人（56ゾ）
金庭　正樹（57化）
菊池　　聡（58ギ）
黒田　哲弘（59食）
高田　俊道（60ギ）
前田　裕之（60食）
向井　　徹（61ギ）
上本　浩之（61ギ）
森井　茂夫（61化）
上田　陽一（63食）
黒子富美恵（平元化）
糸井　信行（平２食）
釜谷　　明（平３食）
山田　正克（平４ギ）
齊藤　健二（平７化）
和沢　美歩（平７化）
福原　庸介（平11シ）
吉川真理子（平12生）
吉田　秀美（同窓会本部事務）

受け付け名簿上で確認した方のみを掲載しております。漏れた方にはお詫び申しあげます。

北水同窓会定期総会式次第

１．開会の辞
　　庶務部　木村　暢夫（昭55ギ）
２．議長選出

３．議案第１号
　平成15年度事業経過報告および会計決算報告
　（１）一般経過報告
　　幹事長　中尾　　繁（昭40ゾ）
　（２）庶務部報告（資料１）
　　庶務部　木村　暢夫（昭55ギ）
　（３）編集部報告（資料２）
　　編集部　矢部　　衛（昭51ゾ）
　（４）組織部報告（資料３）
　　組織部　門谷　　茂（昭50化）
　（５）会計部報告（資料４）
　　会計部　向井　　徹（昭61ギ）
　（６）会計監査報告
　　監　事　小祝　良介（昭36エ）
４．議案第２号
　（１）平成16年度役員改選案（資料５）
　　庶務部　木村　暢夫（昭55ギ）
　（２）第85回（平成16年度）定期総会開催地
　　（名古屋）について
　　幹事長　中尾　　繁（昭40ゾ）
　（３）連合同窓会への加入について
　　幹事長　中尾　　繁（昭40ゾ）
　（４）親潮原稿依頼について
　　幹事長　中尾　　繁（昭40ゾ）
　（５）平成16年度予算案
　　１．会計部予算案（資料６）
　　会計部　向井　　徹（昭61ギ）
　　２．編集部予算案（資料７）
　　編集部　矢部　　衛（昭51ゾ）
　　３．組織部予算案（資料８）
　　組織部　門谷　　茂（昭50化）
５．その他

６．閉会の辞
　　庶務部　木村　暢夫（昭55ギ）

庶務部報告（資料１）

１）新入会員数

水産海洋科学科	35名
海洋生産システム学科	37名
海洋生物生産科学科	68名
海洋生物資源化学科	62名
大学院（他大学、他学部出身者）	19名
合　　計	221名

２）本年度物故者　　（３月15日現在）

正 会 員	72名
合　　計	72名

３）会員現在数　　（３月15日現在）

正会員総数	12,424名
特別会員数	62名
物故会員数	2,202名
準会員現在数	22名
正会員現在数	10,222名
名誉会員数	４名
賛助会員数	５名
合　　計	10,315名

４）新入会員を含めた正会員現在数
　　（３月15日現在）
　　合　　計　　10,536名

編集部報告（親潮発行）（資料２）

号 数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
281	H15. 8.15	38	8,200	912,030	＊1
282	H16. 2.27	27	8,200	672,000	
合 計		65	16,400	1,584,030	

注）印刷費には振替用紙代、消費税を含む。
＊1：自動払込利用申込書　8,200部綴り込み

物故者名簿（３月15日現在）

氏名	期	氏名	期
安斎　甫	（T12セ）	工藤敬司	（S22ゾ）
今田光夫	（S７ギ）	今村慶一郎	（S23エ）
高山忠美	（S10ヨ）	清水一郎	（S23セ）
徳丸　潮	（S10ギ）	小田貞雄	（S23ゾ）
吉田正一	（S10セ）	高間貞敏	（S23ゾ）
石黒信義	（S11セ）	武藤章作	（S23ゾ）
島　六郎	（S11セ）	村上和彦	（S24ギ）
竹内　昭	（S11セ）	金道守雄	（S24セ）
川本忠雄	（S13ギ）	所田真吾	（S24セ）
工藤弥一	（S13セ）	番場省二	（S24セ）
五十嵐重四郎	（S14ヨ）	日景善右ェ門	（S24セ）
新妻胤義	（S14ヨ）	高橋啓司	（S24ゾ）
多藤省徳	（S14ギ）	仲川浩司	（S24ゾ）
浅利英二	（S15ギ）	池田和彦	（S25セ）
大場信吉	（S15セ）	平瀬正二	（S25セ）
前木　誠	（S15セ）	尾崎豈志	（S25ゾ）
高田　和	（S16ヨ）	石川宣次	（S26セ）
金森　潔	（S16セ）	青沼　巖	（S26ゾ）
中村　昇	（S17ギ）	平田寿雄	（S28エ）
竹内春道	（S18セ）	川南不止夫	（S28セ）
中野恵造	（S19ギ）	佐藤文三	（S28セ）
御子柴英五	（S19ギ）	松宮敏彦	（S29セ）
小野寺長二	（S19セ）	須田新悦郎	（S30ギ）
川崎政喜	（S19セ）	千葉悟郎	（S30セ）
長谷川正文	（S19セ）	中野　宏	（S30セ）
古宅三郎	（S19セ）	小林國美	（S33エ）
和田　正	（S19セ）	宇高徳郎	（S34セ）
石渡四郎	（S19ゾ）	土岐正彦	（S36特専）
鳴海　宏	（S20エ）	桧山萬里	（S38エ）
宮崎貞雄	（S20セ）	橋本泰二	（S39セ）
吉田富治	（S20セ）	石黒正敏	（S42ゾ）
石田芳彦	（S22ギ）	青木幸次	（S44化）
岩清水　昊	（S22ギ）	武隈博志	（S56ギ）
笹野正人	（S22ギ）	高橋俊光	（S63ギ）
高砂正男	（S22セ）	荒木武人	（H９ギ）
山部繁夫	（S22セ）	斎藤瑠衣子	（H12資）

組織部報告（会計名簿）（資料３）

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,391,917	1,391,917	
	一般会計より繰入	1,300,000	1,300,000	名簿積立金
	広告料	2,000,000	1,725,000	未収２件
	預金利息		32	
	合計	4,691,917	4,416,949	
支出	印刷費	3,500,000	3,528,000	4,000部印刷
	通信運搬費	300,000	190,000	
	振込手数料等	20,000	10,000	
	予備費	871,917	0	
	次年度繰越金		688,949	
	合計	4,691,917	4,416,949	

（繰越金の内訳　郵便貯金 688,949）

会計部報告（資料４）

１）平成15年度一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	3,961,079	3,961,079	
	会費	10,000,000	8,292,000	2,091名
	親潮広告料	300,000	360,000	
	雑収入	100,000	133,214	
	合計	14,361,079	12,746,293	
支出	親潮印刷費	1,240,000	1,584,030	
	通信・運搬費	1,500,000	1,595,791	親潮発送費（２回分）含む
	総会旅費	600,000	600,000	
	備品費	50,000	38,461	
	消耗品	300,000	250,774	
	会議費	50,000	36,000	
	振替手数料	150,000	98,195	
	事務嘱託費	2,060,000	2,054,353	
	組織強化費	1,000,000	780,506	
	傭人費	150,000	105,000	
	雑費	30,000	19,212	
	名簿会計へ	1,300,000	1,300,000	
	ＯＡ機器整備費(積立)	100,000	100,000	
	ＨＰ維持費	120,000	70,000	
	100周年準備金(2年目)	500,000	500,000	
	予備費	5,751,079	0	
	次年度繰越金		3,613,971	
	合計	14,361,079	12,746,293	

収支差引額（平成16年度に繰越）3,613,971円
（繰越金の内訳：郵便貯金 99,880円、銀行預金 3,498,980円、現金 6,051円、振替口座 9,060円）

２）平成15年度ＯＡ機器整備費（積立）決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	54,265	54,265	
	一般会計より	100,000	100,000	
	合計	154,265	154,265	
支出	次年度繰越金	154,265	154,265	
	合計	154,265	154,265	

（繰越金の内訳　現金 54,265円）

3）100周年準備金決算報告（平成19年まで６年間積立）

	項　　目	予 算 額	決 算 額	摘　　要
収	前年度繰越金	500,000	500,000	
	一般会計より	500,000	500,000	積立２年目
入	合　　計	1,000,000	1,000,000	
支	次年度繰越金	1,000,000	1,000,000	
出	合　　計	1,000,000	1,000,000	

（繰越金の内訳　郵便定期貯金 1,000,000円）

4）平成15年度特別会計決算報告

	項　　目	決 算 額	摘　　要
収	前年度繰越金	20,180,166	
	定期預金(ﾏﾘﾝﾊﾞﾝｸ)利子	11,288	
	郵便普通貯金利子	5	
入	合　　計	20,191,459	
支	次年度繰越金	20,191,459	
出	合　　計	20,191,459	

5）平成15年度特別会計資産内容

項　　目	資 産 額	摘　　要
郵便定額貯金１口	9,301,000	
郵便普通貯金	89,331	
銀行定期預金(ﾏﾘﾝﾊﾞﾝｸ)１口	10,801,128	
合　　計	20,191,459	

会計監査報告

北水同窓会の平成15年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

１．監査対象期間　　自　平成15年３月16日
　　至　平成16年３月15日
２．出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
３．現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以　上

平成16年３月23日　監事　小　祝　良　介 ㊞
　　監事　林　　賢　治 ㊞

平成16年度役員改選案（資料５）

［○は新任］

会　　長
　石　瀬　和　正（昭22エ）
名誉会長
　山　内　晧　平（〃44ゾ）
副会長
　青　　正　輔（〃22セ）
　木　村　喬　久（〃23教セ）
　前　田　辰　昭（〃26エ）
　横　山　　清（〃35エ）
相談役
　遠　藤　信　二（〃13ヨ）
　宮　原　九　一（〃14ギ）
　中　部　長次郎（〃17ギ）
代表理事
　○天下井　　清（〃39エ）
学内理事
　米田国三郎（昭40エ）　中尾　　繁（昭40ゾ）
　猪上　徳雄（〃41セ）　関　　伸夫（〃42修化）
　山本勝太郎（〃42ギ）　清水　幹博（〃42ゾ）
　田島　研一（〃43食）　仲谷　一宏（〃43ゾ）
　池田　　勉（〃43ゾ）　廣吉　勝治（〃44ギ）
　高橋　豊美（〃44エ）　志賀　直信（〃44ゾ）
　三浦　汀介（〃45ギ）　簗田　　満（〃45化）
　後藤　　晃（〃45ゾ）　○阿部　周一（〃46ゾ）
　原　　彰彦（〃46ゾ）　目黒　敏美（〃47ギ）
　吉水　　守（〃47食）　桜井　泰憲（〃48ゾ）
　今野久仁彦（〃49食）　山口　秀一（〃49ギ）
　高橋是太郎（〃50食）　板橋　　豊（〃50化）
　上田　　宏（〃50ゾ）　齊藤　誠一（〃50ギ）
　門谷　　茂（〃50化）　飯田　浩二（〃51ギ）
　平石　智徳（〃51ギ）　荒井　克俊（〃51ゾ）
　矢部　　衛（〃51ゾ）　○中谷　敏邦（〃52ギ）
監　事
　小祝　良介（昭36エ）　林　　賢治（昭39セ）
学外理事
　鈴木　恒由（昭20エ）　西山　作蔵（昭22ギ）
　斎藤　昭二（〃23エ）　森　　武彦（〃23セ）
　小川　裕章（〃23ゾ）　船矢　昭三（〃23ゾ）
　鹿角　幹夫（〃24エ）　長澤　正徳（〃24セ）

高野　洋蔵（昭24セ）　増田　紀義（昭25エ）
佐々木　建（〃25教ゾ）　木村　順治（〃26ギ）
山内　彬一（〃26ギ）　穴澤　邦雄（〃26セ）
大上　博司（〃26セ）　中道　克夫（〃26ゾ）
橋本幸二郎（〃26ギ）　五十嵐脩蔵（〃28ギ）
佐野　典達（〃28エ）　工藤　駿一（〃28セ）
中村　哲也（〃28セ）　名取　喜昭（〃28セ）
寺地　　潔（〃28ゾ）　伊藤　　一（〃29ギ）
太田　雄一（〃29ギ）　坂本　有隣（〃29エ）
池田昌一郎（〃29セ）　岡川　　伸（〃29セ）
大島　栄一（〃30エ）　富田　幸二（〃30セ）
服部保次郎（〃31エ）　箕田　　嵩（〃31ゾ）
羽田野六男（〃31セ）　朝岡　辰夫（〃32エ）
高野　和則（〃32ゾ）　山崎　文雄（〃33ゾ）
島崎　健二（〃33エ）　川島　清明（〃33エ）
高島　　優（〃33エ）　菊地　英樹（〃34エ）
米田　義昭（〃34セ）　齊藤　勝男（〃34ゾ）
高間　浩蔵（〃35セ）　山本　弘敏（〃35ゾ）
斎藤　　毅（〃36ギ）　梨本　勝昭（〃36ギ）
大割　　了（〃37ギ）　繪面　良男（〃37セ）
古井　恒弘（〃37ゾ）　麦谷　泰雄（〃37ゾ）
安間　　元（〃38エ）　○西田　清義（〃38セ）
吉川　正彦（〃39食）　西村　紀夫（〃39セ）
菅野　泰次（〃39ゾ）　小越　征夫（〃40エ）
木村　　昇（〃40セ）　○見上　隆克（〃41ギ）
上平　幸好（〃41ゾ）　岸本　富男（〃42ギ）
眞木　序夫（〃42エ）　蔵多　一哉（〃43化）
工藤　昭彦（〃44ゾ）　伊藤　悦郎（〃45ギ）
三佐川　稔（〃45ギ）　坂下　　功（〃45ギ）
今井　信幸（〃47ギ）　赤沢　和範（〃47ギ）
中林　重雄（〃47ギ）　近江　政斗（〃47食）
陸田　　彰（〃47化）　中　　昭成（〃47ゾ）
黒瀬　道則（〃47ゾ）　土谷　俊一（〃48ギ）
吉田　悟郎（〃48ギ）　坂本　幸造（〃48食）
吉田　正人（〃48ゾ）　二瓶　幹雄（〃50食）
上戸　慶一（〃50化）　中尾　博己（〃51ギ）
増田　宣泰（〃51化）　○長谷川栄治（〃52食）

学外幹事

上野　孝雄（昭53ギ）　上野久仁夫（昭53化）
備前　　悟（〃53化）　松井　良樹（〃54ギ）
宮岡　秀昌（〃55ゾ）　広崎　淳一（〃55ギ）
正木　悦郎（昭55ギ）　種田　貴司（昭56食）
高　日出人（〃56ゾ）　藤田　公美（〃57ギ）
小林　良一（〃57食）　嶋田　隆司（〃57化）
阿部　純也（〃58ギ）　桐山　　智（〃58ギ）
横山　信一（〃58ギ）　佐藤　直孝（〃58食）
宮園　　章（〃58ゾ）　小野　　浩（〃59食）
○吉岡　武也（〃60食）　○松枝　直一（〃60化）
○吉田　秀嗣（〃60ゾ）

地方理事

（稚内）　風　無　成　一（昭41ギ）
（留萌・増毛）　吉　田　俊　一（〃23ゾ）
（紋別）　片　岡　　靖（〃42ゾ）
（網走）　倉　　健　蔵（〃24ギ）
（根室）　望　月　英　明（〃30セ）
（厚岸）　山　本　洋　一（平２ギ）
（釧路）　清　水　富士雄（昭36エ）
（旭川）　斉　藤　隆　司（〃46化）
（十勝）　佐　藤　　裕（〃24セ）
（苫小牧）　○木　村　　実（〃48食）
（室蘭）　小　林　政　利（〃40ギ）
（札幌）　林　　和　明（〃38ゾ）
（札幌）　中　津　俊　行（〃39ゾ）
（札幌）　番　匠　義　紘（〃40ゾ）
（小樽）　中　村　　正（〃17セ）
（余市）　内　農　政　治（〃23ギ）
（青森）　佐　藤　立　治（〃36エ）
（八戸）　田名部　政　春（〃23ギ）
（秋田）　佐々木　　健（〃35セ）
（村山）　西　長　秀　雄（〃25ゾ）
（庄内）　荒　木　昭　夫（〃25セ）
（盛岡）　井ノ口　伸　幸（〃52ゾ）
（宮古）　倉　兼　賢　治（〃47ギ）
（久慈）　船　越　芳　則（〃55食）
（釜石）　白木澤　孝　也（〃25ギ）
（仙台）　渡　辺　　宏（〃39セ）
（石巻）　小　池　幾　世（〃53ギ）
（気山沼）　○千　葉　敏　朗（〃46ゾ）
（福島）　薗　田　善　一（〃36エ）
（茨城）　原　田　和　民（〃24教ゾ）
（栃木）　下河原　　修（〃25セ）
（埼玉）　吉　川　晴　二（〃41ゾ）

（館山）	安　田　健　治	（昭56食）
（銚子）	山　口　隆　夫	（〃53化）
（千葉）	小　泉　　守	（〃32セ）
（東京）	鈴　木　賢　一	（〃36セ）
（東京）	○鉢　木　和　三	（〃38ゾ）
（東京）	菊　本　　肇	（〃40ギ）
（神奈川）	金　澤　時　夫	（〃49食）
（三崎）	本　田　光　一	（〃23エ）
（静岡）	沖　　忠　良	（〃34ゾ）
（長野）	小野里　　坦	（〃37ゾ）
（新潟）	青　木　清　一	（〃23ギ）
（富山）	○竹　長　公　彦	（〃34エ）
（石川）	江　渡　唯　信	（〃22ゾ）
（福井）	田　中　傳四郎	（〃24ギ）
（愛知）	深　谷　　勲	（〃36セ）
（京都）	目　片　徳　治	（〃33ゾ）
（滋賀）	澤　田　宣　雄	（〃57ゾ）
（三重）	堀　口　吉　重	（〃20セ）
（大阪）	入　江　和　彦	（〃45ギ）
（兵庫）	吉　野　生　壮	（〃37ゾ）
（和歌山）	小　橋　保　智	（〃32ギ）
（鳥取）	山　本　栄　一	（〃52ゾ）
（岡山）	土　屋　和　弘	（〃35ギ）
（広島）	堀　田　敬　三	（〃35セ）
（島根）	前　田　善三郎	（〃31セ）
（関門）	佐　島　隆　治	（〃30セ）
（香川）	黒　川　康　彦	（〃18ギ）
（愛媛）	片　岡　光　一	（〃22セ）
（徳島）	小　黒　美　樹	（〃23セ）
（高知）	細　木　忠　義	（〃17ヨ）
（福岡）	石　尾　眞　弥	（〃19セ）
（佐賀）	花　城　勝　也	（〃26ギ）
（長崎）	阿　部　茂　夫	（〃22ギ）
（熊本）	村　上　　一	（〃31セ）
（大分）	武　田　晴　美	（〃56ギ）
（宮崎）	山　崎　正　治	（〃24エ）
（鹿児島）	松　田　恵　明	（〃41ゾ）
（沖縄）	西　銘　史　則	（〃54修ギ）
（北米地区連絡所・北米エルム会内）		
	真　板　洋　輔	（〃32エ）

平成16年度本部幹事

電話番号（直通）

幹事長	○猪	上　徳　雄	（昭41セ）	40－5572
副幹事長	志	賀　直　信	（〃44ゾ）	40－5542
庶務部	○池	田　　勉	（〃43ゾ）	40－5541
	木	村　暢　夫	（〃55ギ）	40－8847
	○東	藤　　孝	（平２ゾ）	40－5546
会計部	原	彰　彦	（昭46ゾ）	40－8878
	西	澤　豊　彦	（〃59食）	40－8898
	○細	川　雅　史	（平２食）	40－5530
編集部	○阿	部　周　一	（昭46ゾ）	40－8864
	矢	部　　衛	（昭51ゾ）	40－5539
	○安	藤　靖　浩	（〃63化）	40－8803
組織部	門	谷　　茂	（〃50化）	40－8803
	○浦	和　寛	（平３ゾ）	40－8859
	山	口　　篤	（〃６ゾ）	40－5543
事務局	吉	田　秀　美		42－3681

平成16年度会計部予算案（資料６）

１）一般会計予算案（親潮発行２回）

	項　　目	予　算　額	摘　　要
収入	前年度繰越金	3,613,971	
	会　　費	10,000,000	2,500人見込み
	親潮広告料	300,000	
	雑　収　入	100,000	
	合　　計	14,013,971	
支出	親潮印刷費	1,600,000	発行２回
	通信・運搬費	1,600,000	親潮発送費（２回分）を含む
	総会旅費	800,000	名古屋開催
	備　品　費	50,000	
	消　耗　品	300,000	
	会　議　費	50,000	
	振替手数料	150,000	
	事務嘱託費	2,060,000	
	組織強化費	1,000,000	総会補助40万円、本部役員会補助12万円等を含む
	傭　人　費	150,000	
	雑　　費	30,000	
	名簿会計へ	700,000	
	ＯＡ機器整備費(積立)	100,000	
	ＨＰ維持費	120,000	@10,000円×12回
	100周年準備金	500,000	
	予　備　費	4,803,971	
	合　　計	14,013,971	

2）平成16年度ＯＡ機器整備費（積立）予算案

	項　　目	予 算 額	摘　　要
収	前年度繰越金	154,265	
	一般会計より積立	100,000	
入	合　　計	254,265	
支	次年度繰越金	254,265	
出	合　　計	254,265	

3）100周年準備金予算案（平成19年まで６年間積立）

	項　　目	予算額	決算額	摘　　要
収	前年度繰越金	1,000,000	1,000,000	
	一般会計より	500,000	500,000	積立３年目
入	合　　計	1,500,000	1,500,000	
支	次年度繰越金	1,500,000	1,500,000	
出	合　　計	1,500,000	1,500,000	

4）特別会計予算案

	項　　目	予 算 額	摘　　要
収	前年度繰越金	20,191,459	
入	合　　計	20,191,459	
支	次年度繰越金	20,191,459	
出	合　　計	20,191,459	

平成16年度編集部（親潮発行）予算案（資料７）

号数	発行年月日（締切り）	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
283	H16．9　（７月末）	40	8,200	800,000	
284	H17．3（1月15日）	40	8,200	800,000	
合計		80	16,400	1,600,000	

注）印刷費には振替用紙代、消費税を含む。

平成6年度組織部（名簿会計）予算案（資料８）

	項　　目	予 算 額	摘　　要
収	前年度繰越金	688,949	
	一般会計より繰入	700,000	名簿積立金
	広　　告　　料	30,000	未収分２件
入	合　　計	1,418,949	
支	予　　備　　費	50,000	
	次年度繰越金	1,368,949	
出	合　　計	1,418,949	

定期総会を終えて
一般経過報告より

前幹事長　中尾　　繁（40ゾ）

報告に先立ち、第84回定期大会の開催にご尽力頂いた東京支部会員みなさまに厚くお礼申し上げます。

さて、平成15年度は本年平成16年４月１日からの大学法人移行前の、国立北海道大学としての最後の年でありました。施行前の慌ただしい１年で、大学院水産科学研究科・水産学部も対応に追われました。教育研究あるいは学部運営において滞りのない軌道に乗るまで、今後しばらくは試行錯誤の局面も予想されます。

その間、水産学部創基100周年記念に対する取り組みは具体化に至っておりません。昨年度立ち上げられた教授会の検討委員会で、今後記念行事を含めて議論され、近い内に具体案が提示されることになりますが、同窓会としては第82回定期大会で諒承頂いたとおり、一昨年から毎年50万円を積み立てて、学部当局案の実施に際して出来る限り協力したいと考えております。また、同窓会としての検討は新たな組織を設けてやるのでなく、本部幹事会がこれに当たることを決定しました。

本年度は第83回定期大会で承認されたとおり、親潮を年２回、また、発行年度に当たる会員名簿を12月に、それぞれ発行しました。これらの詳細は後程、編集幹事からご報告いたします。

本年、平成16年度の役員体制でありますが、会長は石瀬和正（22ギ）現会長に引き続きお願いし、本部幹事長は新たに猪上徳雄（41セ）教授、同副幹事長は志賀直信（44ゾ）現副幹事長に引き続きお願いし、それぞれお引き受け頂きました。副会長、本部幹事、学内・学外、地方理事についてもそれぞれお引き受け頂いております。評細は組織部幹事からご報告いたします。

懸案の会費納入率の改善でありますが、親潮による会費納入方法の案内や親潮送付の際の会員それぞれの納入状況のお知らせ、また、２年目学生の函館移行時に残部の名簿配布、卒業式当日の祝

賀会や新入会員受付などやってまいりましたが、低迷状態を脱する根本的な改善には至っておりません。本年度は名簿発行ということもありましたが、納入率は期待した程には芳しくありませんでした。引き続き会員のご協力をお願いする次第です。これについては後程、会計幹事からご報告いたします。

報告の最後に当たり、３つの提案をさせて頂きます。１つは、大学法人となって大学の組織見直しがなされる中で、北海道大学にあるそれぞれの同窓会を連合体（北海道大学連合同窓会、以下連合同窓会）として統一する件であります。昨年、井上芳郎副学長から各同窓会の統一について理念、目的、組織などの説明を受けた後（連合同窓会の詳細は別にお示しします）、幹事会で検討してまいりました。その結果、北水同窓会も組織としてこの連合同窓会に加入することを決定し、ここに提案する次第です。なお、提案が認められて、連合同窓会に組織加入した後も、北水同窓会としての組織、活動は従来どおりで何らこれまでと変わることはありません。

２つは、次回第85回定期大会の開催地として名古屋を提案する件であります。愛知県支部でご検討頂き、内諾を得ておりますが、定期大会が日本国際博覧会開催と重複すること、同支部の会員が多くないことなど、愛知県支部にはご苦労をかけることになります。本部としては近隣の三重県支部、京都・滋賀支部の会員の方々にご協力をお願いする次第です。愛知県支部から要請があったときには強力な協力を寄せて下さるよう重ねてお願い申し上げます。

最後に、親潮の原稿依頼についてであります。親潮の内容を一層充実させるために、各支部の第一線でご活躍の会員に寄稿をお願いする件であります。内容は自由ですが、出来れば後輩会員が強い関心を持って読むことを念頭に置いて頂くと幸いです。ご了承頂ければ、各支部長宛に依頼の便りを届けさせて貰いたいと考えております。

以上、提案を含めて北水同窓会第84回定期大会の一般経過報告といたします。

北海道大学連合同窓会設立とお願い

幹事長　猪上　徳雄（41セ）

国立大学北海道大学は平成16年４月１日国立大学法人北海道大学に移行すると同時に「北海道大学連合同窓会」を設立し、大学と同窓生が一体となって協力と相互支援体制をとることになりました。その意義は「国立大学法人化と同窓会」に述べてあります。

北水同窓会も平成16年５月18日開催の第84回定期総会で北海道大学連合同窓会に参加することを承認していただきました。その後、第２回北海道大学連合同窓会幹事会において了承され、これで全学部の同窓会が参加する形が整いました（評議員として山内晧平（44ゾ）研究科長、幹事として猪上徳雄（41セ）を登録）。連合同窓会の主な活動としては、当面学生への支援を中心に行っていくことです。運営を行っていく上での資金は「北海道大学カード」を発行して、その利用還元によるキャッシュバックを活用するものです。これに伴い北水同窓会の同窓各位宛にも「北海道大学連合同窓会」から北海道大学カード作成依頼のダイレクトメールが届くと思いますが（９月頃を予定）、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

―◆ 会員の受賞 ◆―

菊地有一氏（24エ）黄綬褒章を受賞

高橋　　孝（24エ）

この度、伊良湖三河湾水先人の菊地有一氏（24エ）には平成15年秋の褒章で黄綬褒章を受章された事を御連絡いたします。

同氏は太洋漁業（株）、太洋商船（株）船長を経て伊良湖三河湾水先人となり、長年その職を全

うされた功により、国土交通省の推薦で受賞の栄に浴されたとの事です。

現在、同氏は水先人を退任され、鎌倉に帰省されておられます。

竹田正之氏（31セ）
瑞宝小綬章を受賞

このたび、瑞宝小綬章を受賞された竹田正之氏より、次のようなご挨拶状を同窓会本部へお送りいただきましたので掲載いたします。

謹啓

皆様には　ますますご清祥のこととお慶び申し上げます

さて私こと平成十六年春の叙勲にさいし　はからずも　瑞宝小綬章拝受の栄に浴しましたところ早速ご懇篤名護祝意を頂戴いたしまして　誠に有難く厚くお礼申し上げます

去る五月七日札幌にて北海道知事から勲記勲章の伝達を受け十二日家内共々皇居に参内し豊明殿に於いて天皇陛下に拝謁の栄誉とともにお言葉まで賜わり感激の極みでございました

これもひとえに貴台をはじめ　皆様の長年に亘る心温かいご支援の賜と深く感謝申し上げます

今後は一層精励し　いささかなりともご芳情に報いたいと存じますので　何卒従前のご交誼ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます

末筆ながら　御尊家皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げ　謹んで御礼のご挨拶とさせていただきます

謹白

平成十六年五月吉日

竹　田　正　之

絵面良男氏（37セ）
平成15年度日本水産学会賞功績賞受賞

吉永　　守（47食）

本学名誉教授、絵面良男氏は昭和37年３月、北海道大学水産学部水産製造学科を卒業後、平成14年３月、同大学大学院水産科学研究科教授を定年退官されるまで、一貫して海洋に棲息する細菌の研究に取りくみ、海洋細菌の特性解明と分類体系を確立し、わが国沿岸域における海洋微生物群集の生態学的研究に従事して、多くの業績を残してこられました。

水産学会功績賞は、永年の研鑽により学術上ならびに応用上顕著な功績を挙げ、水産学会に貢献された会員に授与される名誉ある賞です。今回の受賞は、絵面良男氏の長年にわたる海洋細菌の微生物生態学的研究および日本水産学会の評議員・理事としての貢献が高く評価されたものです。

絵面良男氏の海洋細菌に関する研究は、海洋細菌の特性解明とその成果を基にした分類体系の確立にはじまり、わが国沿岸域における海洋細菌の分布とその生態に関する研究へと発展しました。さらに水産生物と共生する有用微生物を用いた病害防除対策の確立へと裾野が広がり、増養殖現場で役立つ多くの成果が得られています。

この間、学部の運営、学部・大学院学生の教育・指導にも尽力され、多数の有能な人材を育成すると共に、水産関連機関に対する指導を積極的に行い、わが国の水産学と水産業の発展に尽力されました。指導を受けた者の一人として、今回の受賞をお祝いすると共に、北水同窓会の皆様にもお知らせしたいと存じます。

向井　徹氏（61ギ）
平成15年度日本水産学会賞田内賞受賞

飯田　浩二（51ギ）

本年４月、鹿児島大学で開催された日本水産学会総会において、向井徹氏は「魚類およびプランクトンの超音波反射特性に関する研究」により、平成15年度日本水産学会賞田内賞を受賞されました。同賞は物理的観点に立って展開され、学術上ならびに応用上貢献著しい研究業績を挙げた者に対して授与されるものです。向井徹氏は昭和61年本学漁業学科を卒業後、大学院に進学、昭和63年に水産学部助手となり、平成７年に助教授に昇格され、現在、本学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻資源計測学講座助教授としてご活躍されています。向井徹氏はこの間一貫して海洋生物の超音波反射特性に関する研究に取り組み、平成６年には「魚体の超音波反射特性におよぼす鰾と姿勢の影響に関する基礎的研究」で博士（水産学）の学位を授与されました。この度の受賞は計量魚群探知機などを用いた音響資源調査法に不可欠な魚類の超音波反射特性について、魚体の浮袋に着目し、その音響特性を実験と理論の両面から明らかにしたことにより、音響資源調査法の高度化に貢献著しいとして高く評価されたものです。

現在、同氏は魚類の資源調査のみならず、音響を用いたプランクトンやクラゲ類の生物量推定や予測手法の開発に取り組んでおり、今後ますますの発展が期待されます。

ー◆　寄　　稿　◆ー

クラーク博士の曾孫・スワード市長
クラーク氏との偶然の出会い

大園　雍彦（31セ）

私は、帯広市とスワード（Seward）市の姉妹都市提携に貢献したとして、アメリカ・アラスカ州・スワード市開基100周年に招待され、平成15年８月１日より４日間、スワード市長クラーク氏宅にホームステイしました。その時始めてクラーク氏が、かの有名なウィリアム・スミス・クラーク博士の曾孫であることを知り感激しました。

私が帯広市とスワード市姉妹都市提携にどのようにして関わったか、以下順に新聞報道も加えて説明します。スワード市長クラーク氏についても記してあります。クラーク氏が希望されている2006年９月の訪日について、どの様にしてお迎えするか、北大当局やクラーク氏を知っている方等と連絡を取り合っています。良いアイデアがあれば教えて下さい。

帯広市とスワード市の橋渡し

戦後貧しい日本を援助してくれた川部氏に日本政府は叙勲しました。三木元首相と懇意であり、三木元首相の娘さんのアメリカ留学中は川部氏が面倒を見ました。私が会った時（1966年頃）川部



SEWARD PLANT WILL BE EXPANDED

The Halibut Producers Co-Operative fishing freezing plant in Seward has been sold to the newly-organized Japanese and American Fish Development Co. of Alaska and is scheduled to be the nucleus of a modern $500,000 plant to process halibut, salmon, king crab and shrimp for Japanese and U.S. markets. The new plant is expected to employ 75 to 100 people on a year-round basis and to require 30 to 50 fishing boats to service it. Harry Kawaba of Seattle is president of the new company and Jack Warner of Seward is vice president.

1967年1月上旬　現地新聞「Sewardの新工場」の記事　Japanese and American Fish Development Co of ALASKA（要約：川部社長、Jack Warner副社長、50万ドルの投資で最新冷凍工場を作り、大鮃、鮭、タラバガニ、エビを加工し、年間75～100人の雇用が見込まれる。）

氏はシアトルに在住し（H.S.KAWABE&CO.の社長）ホテルやビルを数多く所有した富豪でした。事務室のあるビルの部屋には日本の高価な骨董品が沢山集められていました。日系二世・川部氏のその富は、若い頃、当時の金発掘ブームに沸いたスワードでの事業により得られたものでした（現在もシアトルには川部商会が数多くあるが、川部氏に関係ない人が屋号として使っている人もいるとか）。三木元首相は川部氏の依頼を受け、懇意であった宝幸水産（株）社長・深尾清吉氏に「1964年（S.39）アラスカ大地震で被害を受けたスワード市の復興の為日本企業が進出して欲しい」と依頼しました。私も深尾清吉氏と共に三木元首相と赤坂の料亭で会い調査を依頼されました。当時アラスカで事業を始めていた私に、スワードでの水産事業・新工場建設の視察・調査が命ぜられました。

1967年（S.42）１月25日に調査団歓迎式がスワード市関係者と市民が集まり催されました。その折りスワード市側から、帯広市を知っているか？の発言があり、私が帯広市は私の第２の故郷である旨つげると、是非スワード市と帯広市の親善を取り持って欲しいとの要望があり、私の兄が帯広に勤務しているので依頼し、努力する旨答えました。私はこの年の２月上旬 Los Angeles から私の長兄・大園嘉之（当時、帯広農高勤務）にスワード市から頂いた書類を送り、帯広市の親善を依頼した手紙を出しました。兄・大園嘉之は私の手紙を持って帯広市市役所を訪れました。市役所で検討の結果、姉妹都市に向かって前向きに進めたい。英語の通訳がいないのでオーストラリア軍の書記・通訳の経験がある兄・大園嘉之に「帯広市役所からのスワード市への手紙を翻訳してくれ」との依頼があり兄は翻訳して帯広市役所に渡した。

1972（S.47）6/21北海道新聞夕刊に「スワード市からの贈り物」の記事が掲載されました。当時、江部乙（現滝川北）高校に勤務していた兄・大園嘉之はこの記事で1968（S.43）３月に帯広市とスワード市が姉妹都市提携したことを知り、私宛に新聞を送付してくれました。この記事を見


スワード市から贈り物

1972（S.47）6/21北海道新聞夕刊
「スワード市からの贈り物」

て、私が兄にスワード市の依頼文を手紙してから約１年のスピーディな姉妹都市提携の進展を、私達兄弟は５年間知りませんでしたので、大変嬉しく思いました。そして、一家での北海道観光の途中、1972年８月８日帯広市着、８月９日に帯広市関係者に会うことになりました。家族４人（大圏雍彦・芳子・朋浩・えりか）が帯広市市役所を訪れ、木呂子助役、山本議長、水野市経済部長、帯広市市議会議員などと会談しました（市長は札幌出張中で不在）。このことは1972年8/10北海道新聞に「スワード市に話の花・姉妹縁結びの“仲人”来る」として掲載されました。その折り、スワード市長も帯広に来るこの年10月１日の開基90年記念式典に是非出席するよう依頼されましたが、当日仕事の関係でどうしても出席できず、残念な思いをしました。その後、私と帯広市やスワード市は30年間、縁が切れていました。

2003年、開基100周年のスワードを訪問

2002年秋に恵迪寮入寮50周年記念同窓会（白老温泉）と勝農林科卒業50周年記念同窓会（幕別温泉）に出席した際、帯広国際観光課にその後のスワードとの関係を電話で問い合わせしたところ、帯広市長を表敬訪問する事になりました。９月27日の国際観光課課長、係長との会談の際、「来年2003年にスワード開基100周年に帯広市が招待されている。是非参加して下さい。」とのお誘いがあり、36年振りのスワード訪問を決意しました。2003年６月に帯広市国際交流課から訪問団スケジ



スワード市に話の花
姉妹縁結びの"仲人"来る

1972（S.47）8/10　北海道新聞
「スワード市に話の花・姉妹縁結びの“仲人”来る」



クラーク市長より記念品を贈られる大園



日本からの訪問団に対する歓迎晩餐会
（スワード、2003.8.1）

ュールのメールがあり、私は個人的に最初の海外勤務地 Kodiak 市を７月28日に訪れ、７月31日にアンカレッジで帯広市訪問団と合流してスワード入りすることにした。

８月１日に、アンカレッジからアラスカ鉄道でスワードへ向かいました。車ならハイウェイで２時間半の行程を、列車で４時間半、雄大なアラスカを見せるため、景色の良い所や氷河の所では徐行したり停車したりで、放送があり、のんびりした時を過ごしました。スワード到着後すぐ市役所で歓迎会が開かれ、帯広の砂川市長、鈴木議長、釧路市副市長に続き、大園もクラーク市長より記念品を贈られました。日本からの訪問団に対し、歓迎晩餐会が催され、大圏も英語でスピーチしました。この直前、クラーク市長自宅でくつろぎ話していると、クラーク市長は、かのウィリアム・スミス・クラーク博士の曾孫であることがわかり、ピックリし感激しました。急遽スピーチを変更したり、汗だくでした。久しぶりの英語のスピーチが果たしてスワードの人々に理解してもらえるかが心配でしたが、笑いと拍手に励まされ無事終了。現地の新聞でも「参加者の笑いと喝采があり」最後には「参加者全員からスタンディング・オベィションの大拍手が送られた」と表現してくれました。

スワードＬＯＧ新聞の記事

開基100周年記念に参加した訪問団に対する同紙８月７日号の記事の和訳文を以下に続けます。

“36年振りに大園氏が姉妹都市に戻ってきた”

30年以上前にスワードと帯広（日本）との姉妹都市の関係樹立を大圏雍彦氏がどのようにして手



The Seward Phoenix LOG 新聞
発刊日2003年8月7日（木）
右上写真：クラーク市長（左）と大園（右）

助けしたか知ることは難しい事では有りません。この社交的な70歳の男性は挑戦をひるむ事は有りませんでした。彼の何でもトライするチャレンジ精神は、言葉や文化の違いによる障害を心配する人々に新鮮な感覚を与えました。36年間の空白の後に、大園氏は、帯広代表団員の一人として、スワード市生誕100周年記念を祝福するため先週ここスワード市に帰って来ました。

金曜の歓迎晩餐会では彼の努力に感謝の意を表して参加者全員からスタンディング・オベイションで大拍手が送られました。

彼が通訳の助けなしでスピーチを行う事を説明した時、大園氏の瞳はきらりと輝きました。どうやら彼は最後までスピーチを完成していなかった様です。大園氏は「過去30年間に英語を使用する機会が少なかったので、ほとんど英語を忘れました」「あなた方が本当に私の英語を理解して頂けるのかどうかを心配です」と続けました。参加者の笑いと喝采は、彼の腕が落ちていなかったことを示しました。



クラーク市長氏スピーチ

1967年以前は、スワード市の様な小さな町と日本の北にある帯広市が結びつくと思う人はほとんどいませんでした。スワード市の人々が帯広市との姉妹都市関係構築の協力を求めて大園氏の知り合いに連絡を取った時、大園氏は現地の水産業を調査する為４回スワード市に足を運んでいました。

大園氏は適任だった。彼は北海道大学を卒業しており、帯広を第二の故郷と考えていました。彼は帯広市に住んでいた彼のお兄さんにスワード市の依頼内容を手紙で送り、お兄さんはその手紙を帯広市役所に届けました。国際姉妹協会が1968年にスワード市および帯広市の姉妹都市閑係を認可した時、Ｒ．Ｗ．カークパトリック氏がスワード市の市長でした。

日本との結びつきは長年の間に発展

スチュー・クラーク市長は、著名な探検家和田十次郎？とアルフレッド・ローウェルがスワード市から Iditarod 金採掘地域まで道が作れる可能性を探る為に犬ぞりを走らしたのが1901年で、日本との結びつきはその時までさかのぼると言いました。クラーク市長によれば、ハリー川部氏は1919年にスワード市に来て、日本との貿易がすべて停止される第二次世界大戦まで現地でのビジネスと国際的ビジネスの両方を行っていました。戦後、川部氏はワシントン州・シアトルに移動し、ビジネス事業を再開しました。彼の甥のアルパート川部氏は、ハリー氏を表彰して作られた現在の「カワベ公園」の真南に位置する、スワード市内のダウンタウンに1968年に輸入品を扱うお店を開きました。ハリー川部氏は地震復興事業の一環として、大園氏自身が1960年代のスワード市の調査を行い、日本の会社がスワード市に投資出来るよう努力されました。大園氏が新しい水産処理工場をここに建設できるかどうか、漁業産業の市場調査を行う事を依頼された時、彼はアラスカで丁度新

しい事業に乗り出していました。

大園氏は、1964年型フォードギュラクシー車と写っているエレーヌさんとガレンアルバートソン氏、その隣に立っている若い時の本人の写真を持参されました。今回の訪問時に、大園氏はスワード市のホストと交流している帯広と釧路（姉妹港湾都市）の訪問団33人のメンバーのビデオテープ撮影をしていました。さらに彼は歓迎晩餐会でイコ・川部（アルバートの未亡人）と会う機会にも恵まれました。

――後略――

クラーク市長夫妻紹介

クラーク市長宅でウィリアム・スミス・クラーク博士の古い写真や、先生を紹介した分厚い英語の書籍を見せて頂きましたが、英語が堪能でない私にはほんの一部しか判りませんでした。クラーク市長は兄弟や親戚がガンではやく亡くなった事もあり、人よりはやく55才でリタイアし、10年間アメリカ各地をモーターホームで廻り、アラスカ・スワードが気に入り定着、10年間スワードに住み続けておられます。スワードには大学教授など多くの方がリタイア後住み着いています。クラーク市長の前夫人がお亡くなりになってから、1992年にキャロル夫人と結婚されています。キャロル夫人の前夫との間にできた娘さんは日本人と結婚されており大の親日家です、３人？のお孫さんの写真も見せて頂きました。クラーク市長は断崖の上に家を建てられ、そこから見る眺めは、夏、豪華客船が寄港し賑あう港を眼下にし、周りには氷河を頂く山々が見え世界一の眺望と思いました。その家は、クラーク市長の想い出のモーターホームをそっくり入れる様にキャロル夫人が設計し建てられていました。私は腰に痛みを感じますので重いトランクはクラーク市長にすべて運んで頂きましたが、お年を聞いてびっくりし恐縮しました。なんと私より３才年上の75才との事でした。私のホームステイ中はクラーク夫妻がお忙しい中、市内見物、ハリバット釣りの為の早朝からランチボックスを作って頂くなど、大変御世話になりました。クラーク夫妻は2006年９月の北大130周年記念祭には是非日本と北大を訪れたいとの希望でした。その時は成田から車で35分の我が家でしばらく滞在し、札幌・帯広に向かわれる予定です。



クラーク氏宅で
右からクラーク氏・キャロル夫人と大園

北大・総務部・国際交流課・企画掛に電話し、北大とクラーク家と交流がどの様になっているか問い合わせしましたら、梶本氏から連絡あり、北大を訪問された親族の年月日を記入したクラーク家の家系図をＦＡＸして頂きました。又、北大130年記念式典（2006年９月）は現在計画を立てる段階では無い。クラーク氏がお見えになるときは連絡して下さい。との連絡を受けました。恵迪創刊号のクラーク先生の「大志と野望」と題された文を読み直し、著者の佐山峻様に電話でクラーク家との長い関わりを直接お聞きできました。放送大学学長（前125周年記念祭当時の北大総長）丹保氏に125周年記念行事にクラーク家家族を招待したか問い合わせしました。125周年記念行事には外国人は一人も出席されていないとの返事を頂きました。一年後輩の小泉守氏に、クラーク氏の話しをしましたら、恵迪東京大会が９月下旬にあるので、その折り「クラーク氏を囲む会」等の企画を提案して見るとの事でした。

平成15年９月記

コイヘル奮闘記

山下　正晶（平３ゾ）

その日、私はお隣の岡山県日生の海にいました。小型底びき網漁業の試験操業中で、小型魚を逃がしゴミと漁獲物を選別する網の調査をしていました。ちょうど、その日に茨城県霞ヶ浦では養殖マゴイがコイヘルペスウイルスにより大量に死んでいたのです。

私は平成３年に増殖学科を卒業し３年間の大学院放浪を経て、平成６年に兵庫県に入庁しました。県では淡路、神戸、姫路を各３年で回り再び神戸へ。現在、県庁水産課資源管理係におります。冒頭の岡山県での選別網の研修も今後の資源管理方策の検討のためでした。一方、私の係では資源の関連業務から養殖業も所管しており、このコイヘルペスも私の係が担当なのです。そこで、この度はトピックスとして、私と私の係でのコイヘル奮闘記を雑文ながらお伝えすることとします。

コイヘルペス・・・何と言っても、死んだコイが湖面を埋め尽くしていた最初の報道映像が衝撃的過ぎました。さらに、コイしか罹らない病気のくせに、ヘルペスとは何とも人に移りそうな名前ではないですか。このように衝撃的な報道のためか、ヘルペスという名前のせいか分かりませんが、不幸にもコイヘルはどこへ行ってもＢＳＥや鳥インフルエンザと同じ扱いとして騒がれるのです。

このため、テレビ報道以来、私の係は資源管理担当からコイヘル担当へと変貌を遂げていくのです。実際に「コイが死んだ」との通報は、ほぼ連日途切れることがなく、県でのコイヘル検査で「陰性」の結果を聞くたび一同ホッと胸をなで下ろしていました。しかし、とうとうその日がやってきたのです。本県で初めてコイヘル感染が確認されたのは霞ヶ浦発生から約８ヶ月を経過した本年５月20日。全国で26番目の感染県となりました。

感染が確定した当初は、予想を遙かに超える報告や電話の対応に通常業務は停止状態。ちょうど県のコイヘル対処マニュアルの整備途中であったため、内外からの「マニュアルはまだか！」とのお叱りに、「人には罹らない病気やないか」なんて文句も言えず、一時完全に忙殺されてしまいました。しかし水産課の皆様の協力を得て、対処マニュアルも完成し、初動時の大きな波を乗り越えることができましたこと、心より感謝しております。

最後に、コイヘル業務に携わってきました個人的な所感を少しばかり・・・まず、多くの人が「コイ」を知らないということ。ため池で魚が死んでいれば「コイが死んでいる」とあり、「絶対にコイだ」と写真を見ればフナであり、なんとライギョなんかも「コイだ」と通報されました。悲しいかな、今日多くの人がコイはどんな魚なのか知らないという現実を痛感した次第です。次に、行政やマスコミが原因となり風評被害を広げるということ。全国各地で「コイヘルは人に移らない」との安全性を訴えるがための過剰な対応が、かえって人々の不安を招いているということ。本県での対応が理想的とは思いませんが、マニュアルに基づく現地での冷静な対応が功を奏したと感じています。

現在は、時間の経過とともに記事としてのバリューが下がり、コイヘル報道は低調となっています。しかし、実際の現場では未だにコイ通報が続いており、またコイヘル発生河川では関係者によって死んだコイの処分が粛々と続けられています。国の対応には色々と意見を言いたいところですが、なにより、このコイヘル騒動に終止符を打つべく、何らかの抜本対策（特定疾病から外すこと！）を一刻も早く撃ち出してもらいたいと切望いたします。

アクアラング部

部長　小西香菜子（海洋生物生産科学科４年）

この度は北水同窓会幹事の先生のご好意により「親潮」に寄稿させていただき、誠にありがとうございます。今回、寄稿文を載せて頂きましたのは、昨年度、それまでの活動が認められ、「北大

えるむ賞」を受賞したことにより、アクアラング部の活動を評価していただいたためで、受賞と同様に大変感謝しております。そこで、「北大えるむ賞」受賞までの活動の報告とこれからの抱負を伝えたいと思います。

そもそも、「北大えるむ賞」受賞の対象となった活動は、2002年より始めた「海底リサーチ200X!!」という「潜水活動による漁業や環境の改善と、ダイバーと漁業者の相互理解」のための活動です。この活動が始まる以前のアクアラング部は、主に楽しむことと潜水技術向上のためのダイビングを行っていました。しかし、水産学部に所属し、漁業が盛んな地域にいるのだから、その利点を生かせないものかと考えました。そして、部員が話し合った結果、実際に、日本各地で漁業者とダイバー間での軋轢や海洋レジャーを楽しむ人によるゴミのポイ捨てということが問題になっていることから、漁業者からの不信感を払拭し、環境と漁業に有益な活動をしようということとになりました。

そのためにまず我々が取り組んだことは、潜水活動を通じて、漁業に携わる方々と交流を持つことでした。この計画は、幸運にも水産学部の先生による漁業関係の機関への紹介や、資源管理型漁業の実現を目指す「ひやま漁協江差支所潜水部会」の発足や、「北大元気プロジェクト!!」による資金面での援助ということが重なり、2002年からスタートすることが出来ました。

具体的な活動内容はというと、江差での潜在的漁業資源の有効活用と磯焼け帯の回復のためのキタムラサキウニの移植、漁場環境の実態把握のための生物調査、海浜環境の健全化のための海底清掃でした。これによって、「漁業や環境の改善と、ダイバーと漁業者の相互理解」という目的を着実に達成していくことが出来たと思っています。また、函館ベイエリアでの海底清掃にも参加し、これに参加した函館の市民ダイバー、海上保安庁、ダイビングショップの方々とも交流し、その後、ダイビングと環境や漁業に対する考えについて意見交換することが出来ました。そして、こういった作業を通じて、自分たちの潜水技術の未熟な部分が鮮明となり、その点を意識することにより、改善することが出来ました。このように、貴重な経験をすることができ、部員それぞれが、新たな知識や技術を得ることが出来ました。また、2003年には松前さくら漁協からも依頼があり、エゾアワビの移植作業を行いました。そして、今年に入り、江差ではウニの移植に加え、ナマコの資源調査の依頼が来ています。この他にも潜水訓練の誘いなどもきており、活動の幅を着実に広くしていくことができています。

これからもこういった漁業関係者との共同での活動を継続し、「潜水活動による漁業や環境の改善と、ダイバーと漁業者の相互理解」のより一層の達成、海浜レジャーと漁業や環境との係わりについての啓蒙活動、部員それぞれの成長を目指していきたいと思います。また、水産学部独自の部活として、直接的に海の現場と大学とをつなぐ産学連携の１つの形として、地域と大学との橋渡しが出来るようにしていきたいと思います。

最後に、「北大えるむ賞」の受賞は、アクアラング部顧問の原先生や漁協とのパイプを作ってくださった山下先生、ひやま漁協江差支所と松前さくら漁協の方々、檜山南部地区水産技術普及指導員、渡島西部地区水産技術普及指導員の方々などの多大なご協力によってなしえたものであり、この場を借りて、関係者の方々に深く感謝申し上げます。



船上での準備作業

ー ◆ 支部・会員だより ◆ ー

北水会長崎支部送別会報告

大坂　幸男（63ゾ）

長崎支部送別会が長崎市内で４月３日に行われ、当支部会員７名が参加しました。最近は支部の送別会を行っていませんでしたが、中村好和（51ゾ）さん、渡邊康憲（51化）さん、横内克巳（54ゾ）さん、横沢　康（平12ギ）さんの合計４名の方が長崎を離れるにあたり、急遽、宴を催すことになりました。事前の連絡が不十分であったため、スケジュール調整がうまくいきませんでしたが、送別される方として渡邊康憲（51化）さんが快く出席してくださいました。氏は1990年に水産庁西海区水産研究所（現在；独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所）へ着任され、主に九州西岸海域の海洋化学の分野で14年間研究をされてきました。特に、2000年の有明海におけるノリ不作問題では、研究の最前線で尽力されたことが印象深く残っております。その後発足した有明海・八代海漁場環境研究科長として意欲的に研究を行ってこられました。今後は広島県にある、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海水産研究所赤潮環境部長として、後進の指導、助言等にあたられます。

送別会は長崎を代表する新地中華街で行われました。会では集合写真撮影後、西ノ首豪陽（38特専）幹事長の挨拶、中部長次郎（17ギ）支部長の乾杯のご発声を受けて始まり、中華料理を食べ、紹興酒で語らい、盛会となりました。最後には長崎の郷土料理である「チャンポン」、「皿うどん」が運ばれ、良き長崎の思い出作りが演出されました。最後に岩見真一（17ギ）副支部長による「締め」が行われ、送別会は幕を閉じました。



［参加支部同窓生］

中部長次郎（17ギ）、岩見真一（17ギ）、阿部茂夫（22ギ）、木村義徳（24ギ）、西ノ首豪陽（38特専）、渡邊康憲（51化）、大坂幸男（63ゾ）

北 水 同 窓 会
三崎支部総会と懇親会報告

西　　哲雄（24エ）

平成16年度北水同窓会支部と鹿児島大学水産学部の魚水会三崎支部合同の総会と懇親会が４月17日17時より神奈川県三浦市三浦海岸にあるオーシャンリゾートホテル、マホロバマインズ三浦で29名出席し開催されました。

山本忠雄支部長（19ギ）の挨拶で始まり、伊東尚彦幹事長（35エ）の会計報告後、物故者の冥福を祈った後に、日本かつお、まぐろ漁業協同組合連合会長上田大和氏（魚水１期）による最近の日本マグロ延縄漁業の現状と将来に対する対策等詳しくお話しを伺った。続いて懇親会に移り西元文雄副支部長（魚水31遠）による開会の辞、乾杯で始まり、伊東幹事長からたくさんのまぐろ刺身が用意されその美味にお酒もすすみ、お互に親睦を深める事が出来ました。

扨、ここで北水同窓会三崎支部と鹿大水産学部の魚水会三崎支部が何故、合同で会合を持つようになったか説明したい。

北水会三崎支部は昭和21年７月に長崎勝平氏（３ギ）が太洋漁業（株）三崎営業所長として赴任されて以来、同窓の後輩が続々と三崎のまぐろ延縄漁業に従事する様になり三崎支部が設立された。又、昭和21年４月、鹿児島水産専門学校が開

校、初代校長として当時函館水産専門学校の教頭であった山本清内氏（大３ギ）が赴任された。そして昭和24年春に第一期生が卒業となり、山本校長から長崎所長に紹介があり卒業生が太洋漁業（株）のまぐろ延縄船に乗船したのが北水会員と魚水会員が接した最初であります。

以后、両校を兄弟校として接する事となり、全ての行事は合同で行う様になりました。

その後も両校の卒業生が続々と三崎のまぐろ延縄漁船に乗船するようになり70名を越える会員数となりました。

長崎先輩は続々と三崎に集まってくる若い会員達を船に乗せっ放しで放っておくのは、良くないと判断、将来の指導者になる人達に長い航海から帰って先ず心から休める自分達の場所を与えてやるのが先輩の義務と考え、市内の病院を買取り若干の修理を加えて寮が出来上がった。これが北水寮魚水寮で昭和27年11月でありました。

然し寮の運営は仲々の苦労の連続で又、旧病院の跡であり間取りも悪く毎年修理費もかさむ様になり、改築の意見が表面化し、再三の会合での意見の交換、海上勤務者からのアンケートの結果、改築費全額会員負担での改築賛成という事で、昭和35年４月の北水、魚水支部総会で満場一致で議決されました。総坪数80坪、部屋数11、宿泊最多人員50名、予算400万円と案が出来た。此の建築費は両支部全員から、最低１人３万円、船長クラスは５万円として寄付を募った。当時は一般の独身者の給与からすれば、均２ヶ月分に相当する高額で、全員がまぐろ漁場で必死に働いた血と汗の結晶である収入からの出費であり、各会員の理解と協力なくしては達成する事は出来なかった。

昭和35年10月29日上棟式。昭和36年４月14日北水寮、魚水寮が竣工した。誠に残念ながら、長崎勝平支部長は病気の為竣工式に出席できず、同年７月24日に永眠された。長崎先輩の遺徳を後々まで伝えるために、寮の名称を勝平記念寮と改められた。かくしてまぐろ延縄漁業は全盛期を迎え、北水、魚水の会員は多数、船長兼漁労長として太平洋、印度洋はもとより大西洋にも出漁し多大の成果を収めたのであります。然しながら、200浬の設定、資源の減少、第三国船の急激な進出等で、魚価の低迷をまねき、まぐろ延縄漁船は減船による減船によって、昔日の面影はまったく失われた。勝平記念寮も会員の減少等により維持が困難となり昭和44年に閉鎖売却された。

現在の北水同窓会三崎支部会員は35名魚水会三崎支部会員26名合計61名支部の会合、春秋のハイキング等の行事は常に同支部合同で現在も行われている。



支部総会出席者
北水同窓会三崎支部
山井年男（16ギ）、早田憲弘（18ギ）、山本忠雄（19ギ）、小松邦敏（20エ）、樋口　昭（20エ）、須田育夫（22エ）、大山公男（22エ）、松宮　敏（22エ）、湯田文平（22ヨ）、本田光一（23エ）、富井宗昭（24エ）、安井敬一（24エ）、西　哲雄（24エ）、藤岡　隆（28エ）、松浦貞夫（30エ）、我妻　栄（33エ）、伊東尚彦（35エ）、森　紘夫（39エ）、寺本紀久（39セ）
魚水会三崎支部会員　10名出席

平成16年度東京支部総会報告

下村　政雄（41ゾ）

北水同窓会東京支部の平成16年度総会は、平成16年５月18日（火）午後６時より、東京都内の虎ノ門パストラルを会場に開かれ72名におよぶ会員の出席を得て開催された。

先ず、鈴木賢一支部長（36セ）の挨拶の後、議長に山成克二氏（37セ）を選出し議事にはいっ

た。

平成15年度事業経過報告・会計決算報告及び16年度の活動方針・予算について、下村政雄幹事長（41ゾ）から説明がされた後、藤井真一（44エ）監事による監査報告あり、これらが一括して承認され、円滑な支部総会が終了した。

埼玉県支部総会と懇親会報告

白井　純二（48食）

平成16年度の北水同窓会埼玉支部総会を昨年お世話になった大宮西口駅近くの小料理「孝」にて、２月14日（土）開催いたしました。

出席は11名で少し寂しい会となりましが、今後も続けてさらに発展させたいと考えております。

吉川支部長（41ゾ）の挨拶で始まり、懇親会へと移りました。お酒も進む中で、お互いの近況などを話し会って、盛況のうちに時間となり、記念撮影後は、「都ぞ弥生」、「逍遥歌」「水産放浪歌」などを全員で合唱し、お開きとなりましたが、次会は皆で出席者を集い、盛会なものにすることを目標としました。

来年度も２月の第２土曜日に行う予定でおりますので、埼玉に在住する同窓の皆様も気軽にご参加下さい。



（写真の氏名紹介）

後列左より

吉川晴二（41ゾ）、高山允雄（37ギ）、森田昭博（48食）、大久保征二（39セ）、市川浩次（36セ）、後藤英輔（平７ギ）、白井純二（48食）

前列左より

大野錠治（32エ）、五十嵐憲治（37エ）、藤岡隆（28エ）、増田清岩（32セ）

北水同窓会愛知県支部総会報告

藤井　洋治（42ギ）

２年ぶりに愛知県支部総会が2004年６月５日（土）18時より名古屋駅前のホテルアソシアにて開催されました。

三栗幹事長（39ギ）の司会にて、才野雅男（28セ）の死去報告、2005年度北水同窓会全国総会の名古屋開催決定報告がありました。

深谷支部長（36セ）より北水同窓会全国総会の東京開催への参加報告と、名古屋開催の動員計画について、会員の皆さんへの協力要請がありました。

その後、鈴木東京支部長（36セ）より東京総会開催の概要説明と特別講演として『漁業、水産の現状と課題』について約１時間の講演をしていただきました。現役引退者も多く水産業界の厳しさと、将来性に改めて関心を持ったようです。引き続き、野畑顧問（24セ）の乾杯の音頭で懇親会に入り、各会員の自己紹介、近況報告があり、寮歌『都ぞ弥生』の合唱にて21時に盛会裡に終了しました。

参加者氏名

野畑順二（24セ）、野口　信（29ギ）、佐々木宏司（29セ）、柴田勝明（31エ）、深谷　勲（36セ）、本多純夫（36セ）、内田奎司（37ギ）、加藤秀康（37セ）、川西義隆（37セ）、荒井城一（37ゾ）、野末秀俊（38セ）、三栗　茂（39ギ）、原田洋一（40ギ）、近藤忠実（40ギ）、兼崎秀勝（41セ）、藤井洋治（42ギ）、山口　皓（44ギ）、磯野保雄（47ギ）、堀場宏昌（47

ギ）、大串松彦（47化）、山田　勉（48ギ）、神保重孝（54ギ）、桜井　清（54ギ）、吉岡正弘（55化）、井上英樹（平２ギ）

以上25名

特別参加　　鈴木賢一（36セ）



鈴木賢一（東京支部長）の講演を聞く会員一同
04'. 6. 5

平成16年度
函館支部総会・懇親会報告

平成16年度北水同窓会函館支部総会は、平成16年７月２日（金）午後６時30分より、ホテル函館ロイヤルにおいて59名におよぶ会員の出席を得て開催されました。

岡川伸支部長（29セ）の挨拶の後、議事にはいりました。平成15年度事業報告および決算報告及、監査報告、平成16年度事業計画案及び予算案が円滑に承認され、支部総会は短時間で終了しました。早々、懇親会に移り、杯を交わしながらの会話で会場は盛り上がりました。最後に、抽選会を行い当選に歓喜しながら楽しい一時を過ごしました。

文責　函館支部事務局

新制遠漁１期の集い
（平成16年3月3日）

星野　　晽（23エ）

春まだ浅き３月。男子の節供ならぬ“雛祭り”の３日を選んで、縁が深い『三崎』の地で第11回目のクラス会が開かれた。

題して『三崎・喜寿の集い』である。昭和20年３月、函館に顔を会わせてから60年の歳月が流れ『少年老い易く～すでに秋声』を実感する級友13名と家族７名合わせて20名が元気に参集。

会場は三浦海洋深層水露天風呂で名高い『油壷・観潮荘』。

10年前にも開いた場所。「小網代湾」に面して名峰・富士を望む絶好の景観の地である。

旧友56名。すでに鬼籍に入りし者22名。幸いにも喜寿を迎え、健在にして集まりし幸運を感謝するとともに、亡き級友に心からの冥福を祈り開会の運びとなる。

冒頭に本田光一幹事が名調の朗詠『青春』を披露、その声量の素晴らしさに一同感銘を深くした。近く大会での発表もあると聞く。

宴もたけなわになり、遠路はるばるブラジルから参加した村田哲兄の三女・真智子さんの“リオの踊り”は可憐にして華麗、『雛祭り』にふさわしく、老人たちへの絶好の贈りものに。

歓喜した一同は、佐々木史郎幹事のリードで校歌・逍遙歌の斉唱後、自慢の名調子でカラオケの一大ペイジェイントとなった。

奥方たちも釣られてハッスル。渡辺正春夫妻のダンスも見事に、延々と３時間にも及ぶ宴となったのである。

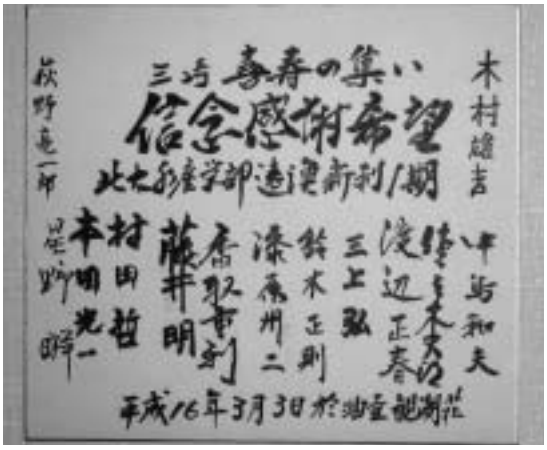
顧みれば、函館から60年の歳月が流れた、いよいよ各々が人生の最終章を迎えつつある。函館に始まり、札幌、熱海、新潟、京都、三崎、博多、鬼怒川そして再度の三崎。持ち回りのクラス会はこれが最終となる。これからは各地域で会合を開くことに意見は一致した。

九州から参加の木村雄吉夫妻は『自分史』ともいうべきパンフレットを作成されて、全員に配布

し別れを惜しみながら帰っていった。

御縁のあった恩師、特に御高齢の98歳の井内三次先生ご夫妻、96歳になられた平山二郎先生ご夫妻の益々のご壮健を心からお祈りするとともに、クラスメイトの一層の活躍を期待して擱筆する。

追伸（色紙写真を同封）



北　水　46　会

水上　武司（46食）

札幌及び近郊に在住の昭和46年卒は「北水46会」として毎年、新年会を開催しています。第一回がいつだったのかは誰も覚えていませんが20数年前から続いており、最近は２月の〈遅い新年会〉が恒例です。当初から相山忠男君（食）が会長、伊森博司君（食）が事務局として参加者の拡大に尽力され、現在は44名が会員です。

平成16年の「北水46会新年会」は、さっぽろ雪まつりでにぎわう２月６日に札幌パークホテルで16名が参加し開催されました。我ら「団塊世代」、時に世情を賑わしつつ、燃え尽きぬ何かを引きずりながら、既に50歳代半ばに達した我が身の年相応の分別にとまどいを共有しに集うのかも知れません。毎回必ず初参加のメンバーがいてマンネリ化することがなく、過去を思い、今を語り、近未来を夢みて時間を忘れます。二次会は、会員の猪股壽君（ギ）が経営する、すすきの「パブスナック・キーポイント」へ移動し、ここから参加の２名を加えて、深夜まで、互いのパワーで充電し活力を取り戻した一夜でありました。



◎参加者（敬称略）

（漁業）猪股壽、伊藤武彦、佐々木宏治、清水徹、西森　茂　（食品）相山忠男、荒田（旧姓川村）久美子、池田浩明、石田俊三、伊藤博司、海老名（旧姓本多）名保、佐々木徹、豊瀬幸治、水上武司、米道（旧姓太田）江美子　（化学）高築健二、吉田　恒　（増殖）伊藤俊輔

八紘会（昭和17年卒の同期会）関東地区の集い

添田　　恒（17ヨ）

今年も例年の通り４月29日の「みどりの日」に横浜中華街「白楽天」に集まり昼食会を開催した。大型連休の初日でもあり、MM21線の開通もあり、大変な混雑な中を老躯を運んだ仲間は８名であったが、皆、元気に歓談して来年の再会を約して解散した。当日の出席者は次のとおりであった。

青戸偕爾、新井邦夫、坂田章雄、清水栄一、土屋要、宮本方正、遊佐多津雄、添田　恒

2004年二五会の集い

廣崎　芳次（25ゾ）

二五会（昭和25年卒業なのでフタゴ会）は、2004年５月17日、18日にかけて、奥入瀬渓谷、十和田湖、ホテル青森、竜飛海底駅、函館五島軒などで交流を深めた。あいにくの驟雨で観光は満喫できなかったが、その分ゆっくりと交流ができたことは、かえって幸いであった。竜飛海底駅では、先人の偉業に感動した。函館では、久保先生をお迎えし、五島軒若山専務のご好意による素晴らしいパーティーで、心ゆくまで歓談を重ねた。

参加者は、伊藤　博・貞子、小林哲夫・智枝子、岸本不二夫・寿子、鈴木政雄・英子、高杉勉・しま、廣崎芳次・八重子、山代昭三・敏子、山平　淳・文子、渡辺慧二・節子と出雲政志、上河睦美、唐沢　康、小林哲男、坂本　茂、佐々木建、鈴木愛子、高杉新弥、竹沢　浩の27名と久保達郎先生。

卒業55年目の2005年は、サケの遡上観察をメーンに、小林、岸本、鈴木が札幌で世話をすることに決まった。



2004. 5. 17　於函館市元町五島軒本店

連続ハプニング 新制３期遠漁会

岡山幹事　田中　正晴（25エ）

昭和22年４月、五稜郭の桜に迎えられて50名が入学した。その頃、北海道沿岸では、ニシンが山のように獲れ、どの川も鮭があふれ、函館沖ではスルメイカが豊漁であった。あれから50数年、20名が黄泉の国に遠洋航海に旅立って帰らぬ人となっている。生き残りの30名に、永沼事務局長より案内文を出したが、結局８名の淋しい集合である。何かと故障の多い歳ごろなのだ。

でも、桜の花開いた３月29日（月）ＪＲ岡山駅に集った。Ａ君とＢ君は、新幹線で同行したが改札口に出てみると、後ろを付いて来てるはずのＡ君がいない。たった今まで一緒だったのに、はぐれたのか？旅にはハプニングがつきものと言うが、我々に限ってそんなはずはない。集合時間に遅れる。Ｂ君は入場券を買って、もう一度ホームへとって帰す。Ａ君は切符を紛失して出られずにいた。何と言うことか。この大事な時に。だがジパングクラブで切符を買ったので、切符の番号が控えてある。親切な人が切符を拾い車掌に届けてあった。切符は広島あたりを走っている。その切符の写しをファックスで送ってもらい、改札口も通過、帰りもそのファックスの控えのような薄っぺらな紙ぎれで無事帰れた。ＪＲの粋な計らい、昔なら考えられぬこと。さすが民営化のＪＲ西日本の誉めるべきサービスである。

Ａ君は元市議会議長を務めた逸材、公用車が迎えに来て、ドアーは人が開けてくれる身分、切符など持ったことがない。全部、秘書や議会事務局にお任せの生活だった習慣が災いした。

ともあれ15分遅れで全員集合して観光バスで出港。日本３庭園の１つ、岡山後楽園へ。池田藩の300年の歴史を刻む名園。春うらら、桜は満開、皆んなの笑顔がほころぶ。岡山には北水会岡山支部（土屋和弘会長35ギ）があり、毎年総会を開いて親睦を図っている。そこに１年先輩の岡田弘さん（24ギ）が在籍され親しくさせて頂いているの

で、集合場所から後楽園までご出馬頂いて、皆さんに紹介、話をすれば１級違いの北晨寮なので、色々な消息がとび交い、昔話がはずむ。後楽園の池に岡山城が影を落として緑に映える。

岡田先輩と後楽園にお別れして、次ぎは倉敷の大原美術館。何というハプニング。月曜日は休館日と判明。幹事の不注意。今回の段取りに円形脱毛症になったくらい神経を使ったのに、こんな初歩的なミスをするなんて、老化現象のいやな兆候、申し訳ない。予定を繰り上げて、国立公園倉敷市児島鷲羽山へ。瀬戸大橋を眼下に見て、夕日の傾く瀬戸内海を楽しむ。黄金色に輝く備讃瀬戸を操船して航海した元船長も何人かいて感慨にふける。

「下津井港はヨー、入りようて出よてヨー」

港の丘の上のホテル、「しもつい」が今夜の宿。夕食は蛸料理、蛸飯、腹一杯の満足。

「遠漁会は、いつも男ばかりで色気がない」と、幹事の趣向で、妙齢の美女３人を宴席に同席させる許可を求めた。往年、女性と酒は大好きのメンバーだから、勿論反対などはなく笑顔に崩れた。幹事は健康のため社交ダンスを始めたが、趣味が高じて資格もとり、倉敷市内の主たる公民館で講師を務めた関係で、その生徒さんに友情出演してもらった。酒も一層進み、鼻の下も伸びて、Ｃ君などは、昔とった杵づかで、キャバレーで修行したダンスを巧に踊って拍手喝采、食道ガンを手術し退院して20日目とは思えぬ、あっぱれな遠漁魂である。

Ｂ君、Ｄ君は、奥さんを早く亡くした１人者なので、血が騒ぎ酒にも酔って胸がドキドキ。こんなことは至極健康に良いことである。下津井の夜は賑やかに更けていった。

２日目は大原美術館。小学校の教科書にも載っている社会勉強。「エルグレコの受胎告知」「モネの睡蓮」、ピカソ、ミレーの本物の絵を参観。教養を高めて、次のＮＨＫ大河ドラマ「宮本武蔵」の里に急ぐ。あいにくの雨、武蔵資料館、美術館を見学。人生を悩み、剣一筋に生き続けた人間のたくましい生きざま。今にも雨煙る杉の木立の中から武蔵が現れてくるような幻想に誘われる。早めに今夜の宿へとバスを走らせたら、Ｅ君が急に腕時計が無いと騒ぎだした。落とした、忘れた、盗まれたなど。ゆっくりと時間をかけて反省すると、昨夜の宿の風呂の更衣室のカゴの中に置き忘れたらしい。携帯で連絡。「ありました」と返信。便利な世の中になったものだ。着払いで返送してもらうことで１件落着。

２日目の宿、湯の郷温泉竹亭。夕食は松葉カニ料理、食べるのに忙しい、杯に手が出ないくらい。「横津の丘をさまよえば・・・」の逍遙歌は大合唱になり、おしょろ丸増田元船長の声が一段と大きく響きわたった。宿は、往年の北晨寮の部屋となり、昔話に花が咲く。春雨が優しく軒を叩いた。

３日目、朝食後、別れの時が来た。衣服を整えていると、Ｆ君だけがパンツ一枚の裸で「下着が無い」と言う。背広や財布はある。風呂に忘れた？盗まれた？「いや風呂は宿の浴衣で素肌でいった。部屋はロックして寝た。盗人なら財布を盗む」はてな？出発の時間が迫る。同室の各人は、パンツのＦ君を囲んで困った。もう一度各自点検。すると意外、Ｅ君が自分のとＦ君のと２人分着込んでいた。何と北晨寮が幼稚園となった。吉本興業のネタにしたいような話、朝酒と心臓病の薬が副作用となって、もうろうとしての仕業だった。恐ろしいことよ。用心、用心。

この歳になると遠洋漁業どころか、沿岸航海も危ない。でも、喜劇をしながらも航海は無事終わった。皆んなご苦労さまでした。次回は、高桑三郎君が幹事、石橋幸夫君が相談役で秋田県十和田湖の予定。



後列左より
田中正晴、永沼博文、高桑三郎
前列左より
逸見久孝、増田紀義、手塚　充、石橋幸夫、野口英雄

七洋会　第23回の集い

山井　年男（16後ギ）

平成16年５月23日は我等16後卒「33期」の集り即ち七洋会の第23回目の会合で、大切な一日だったが、娑婆は昨日からの小泉首相訪朝の報道が次第に熱気を帯びてきた一日でもあった。

これにくらべ東京は、この熱気をさますかの様な、季節外れの低温で五月晴れどころか、どんよりして北海道の方がはるかに気温が高いなどとの気象情報があり、我等老年者は、襟をかきあわせ、首をちぢめながら、会場へ急ぐ、とんだ道ゆきとなった。

会合の幹事として出席者のことを考えながら会場のニュートーキョーへ急いでいると、北鮮出身だった「クラスメート」Ｋ君がふと脳裏をかすめた。大柄なしかも明朗な良い奴だったなどと思いながら信号待ちをしていると、69期の後輩Ｍ君の家族に拉致不明者のあることがかつて親潮に載ったことがあるなあなどと思い出され、目の前の電光ニュースを見上げたが首相の訪朝にもかかわらず新しい情報は映らなかった。

このＫ君やＭ君のせいか、北朝鮮の理不盡さが急に我々の身近なものの様に思われてきた。電車バスなどを乗りついでの二時間余ののちニュートーキョー内の「料亭さがみ」に着いた。ここは今日の寒さも都会の喧騒や熱気も立ちどころに消してしまう不思議なところである。下足札を渡され中に入ると、毎回云うことだが、山の中の一軒家風の静寂さを持った雰囲気が一層身にせまってくる。

紋別市からの黄金夫妻がすでに到着ずみで休息しておった。定刻までに、なつかしい顔が揃って予定通り12名が集って話に花が咲き出した。みんな楽しく集ることが出来てよかったなあという感じでした。

正午に黄金君の音頭で乾杯、懇親会へと続き各自の近況報告へと移った。

この時の話題を拾えば次の様だった。

５月一杯「本まぐろ祭り」と銘うった「料亭さがみ」の看板通り本まぐろの赤身が出された。江戸の旦那衆はまぐろは赤身しか食べなかったものだと聞いていたので我々は旦那衆並のあつかいかと思ったが、「とろ」より赤身がやすいとわかり変な納得をした。出席者のＵ君は江戸っ子、この様なうんちくはさすがふかいものと感心した。

好きなうまいものは食べられなくなったが、毎日の散歩で体の調整にはげむ者。

油物、塩分の調節を強いられた連中は出席者の大半でした。アルコールの制限はほとんどの者に当てはまった。

それに皆さん持病があり、病院通いは慣れたものの様でした。

又、これらの制約にもかかわらずスポーツジムなどうまく利用し退屈することなく日常生活を楽しむ、たのもしい者もおった。

勘定書を見てもアルコール類はグンと落ち、ジュースやウーロン茶などの金額が上昇しており、あと２～３年もすれば両者とんとん位になりそうだ。

他に耳の遠くなった者がかなりあったがみんな80才なかばという年令からくる自然の流れかもしれない。皆さんほがらかで２時間たっぷり食べまくり、しゃべりつづけた一日でした。この元気さは相当なもので老いてはいるが枯れてはいないということで万々才だった。

最後は静寂な建物の中、深瀬君の音頭で流れる様な逍遥歌となり会は閉じた。来年を約束したことは勿論だ。

建物を一歩出たとたん、誰の後ろ姿もみあたらない、魔の東京の人込みの中へ一瞬にしてみんな消え失せて行ってしまった。

いつものことながら不参加者に今日のスナップ写真を届けた。



右側
右前より　山井夫人、滝戸　勉
左前より　黄金末広、黄金夫人、宮本茂夫、金子　茂
左側
右前より　山井年男、深瀬　茂、横山富夫
左前より　上野元一、土屋栄治、内田勝郎

長靴会　卒業50周年記念大会 函館で開催

棚部　保徳（29セ）

昭和29年卒業の長靴会の卒業50周年を記念する第13回同期会が５月25、26日に青春の思い出の地函館で開かれた。

集う学友67人、ご夫人６人がご同伴、「やー、やー」と声をかけあい、湯の川花びしホテルで夜の更けるまで語り合った。

長靴会が最初に開かれたのは卒業20周年の昭和49年に函館で出席者60人、恩師ご招待、母校訪問、記念植樹などをし、その後、各地の世話人の計らいで伊東温泉、札幌、箱根温泉、鳴子温泉に集まり、昨年は名古屋が会場となった。

かっての海の男たちも齢70余歳、腰、膝の痛みを訴える者もいたが、函館湾に臨む七重浜で学んだ仲間との対面に、たちまち20代の青年に甦った。

「やっぱり函館だな。臥牛の山、横津の丘そしておしょろ丸」－

記念撮影のあと、懇親会。開催地世話人の伊藤一（ギ）の司会進行で物故者に黙祷、初出席の芦田義悟（セ）、倉野尭（ヨ）の紹介、地元の岡川伸（セ）の開会挨拶に続いて、札幌、東京、東北地区世話人の近況報告があり祝杯。宴は盛り上がり、席から席へとわたり歩く者、「おら、おら飲めよ」と血圧も糖尿、前立腺も忘れて痛飲。

ご夫人たちの席も誘われたように笑い声、拍手がわく。

やがて全員立上り、肩を組み、「流星落ちて住むところ、ずずらんの香の匂う郷、あこがれの北国に集いしわれら、いざや歌わんかなや我等が歌を」の前咏に続けて「星の像にあこがれて横津の丘にさまよえば　たそがれてゆく大空に松前城の夢の跡、栄華は地上のたまゆらの一枝の花に生命あり」－逍遙歌を心静かに合唱。同期の桜の思いが全員の胸にしみわたるひとときだった。

二次会では、夫婦でデュエットのカラオケ、大漁節などマイクを奪いあうほどの賑わいが続いた。

翌日は流れ解散となったが、函館市内の観光バス、道内回遊などそれぞれが旅を楽しみ、再会を誓いあった。



肩を組みあい、心を込めて逍遙歌を合唱

北水26年卒漁業科最後の同級会

中森　正義（26ギ）
鈴木　信夫（26ギ）

去る６月21日、今回で16回目の開催で最終回とした同級会が函館湯の川温泉「大黒屋旅館」で行われた。

この日、函館は台風６号の日本海北上で天候の状況が心配されたが、その影響もなく深くたちこめた海霧に包まれ、白い黄昏に煙っていた。

そして、霧に濡れた新緑は更に色濃く映えて「ご苦労さまでした」と囁くように微かな潮風に揺れていた。

顧みると、昭和49年に函館で第１回目の同級会を開催して以来、今回で16回目を数えた。とりわけ、平成２年以降は都合で開催できなかった10年を除き、毎年開催して多くの友が集った当該同級会の存在意義は、大変に大きいものがあった。

これまで（15回まで）の開催地を辿ると、東京、静岡（伊豆長岡）、四国（松山道後）、宮古、新潟（岩室）、山形（上ノ山）、札幌（定山渓）、大沼公園、松前江差乙部、熱海が各１回、横浜２回、そして函館３回で行われて来た。

それは全国を縦断し、その開催地の風土、風習、風味を味わいながら、友情を深めた風の旅であったと云っても過言ではない。

時が去り、星が移って、すでに古稀を過ぎる年代を迎えた。体力の衰えや健康面での故障勝ちの友が増え、就中、同級会の開催に奔走してくれた幹事の方や多くの友が黄泉へと旅立っていくなか、最近の同級会の参加者が減少し、寂しいかげりがあった。

それは、同級会に常連的に参加していた何人かの友が、入院、療養等の致命的理由で、長旅ができない状態に陥ち入ってしまったことだった。

このため、この辺で区切りをつけたらとの声も多くなった。

幹事会では、これらの実情を踏まえ、最終回という苦汁の決断をしたと理解した。

最後の同級会開催を知ったとき、諦めにも似た深い溜息を誘った。同時に、脳裏には様々の思いが交互に輻輳し、寂しさが満ちて来る潮のように盛り上がり、胸に拡がっていた。

最後と云うことで29名（内夫人10名）と最近にない参加者であった。

今回は、遠くは九州佐賀の花城君、四国西条の川上君をはじめとし、新潟の苅部（旧姓池埜）君、吉田君、静岡の荒井君、内山君、横浜の寺田君、宮古の蛯子君の８人は、それぞれ夫人を伴っての参加、札幌の内海君、田村君、前田君、地元函館からは稲村君、伊藤君、木村洋一君、橋本君、山内君と木村順治夫妻、それに江差の鈴木が夫人と、青森から中森という面々が集った。

会場では写真撮影のあと、午後６時から懇親会が始まった。

司会は鈴木が担当し、先ずは物故者の冥福を祈り、黙祷をした。続いて橋本幹事代表の歓迎挨拶、川上君の祝杯で宴会へと移った。

この間、同級生各人からの近況や学生時代の思い出話等が報告され、懇親会を盛り上げ、花を咲かせた。

荒井君のハーモニカ吹奏もあった。これは同級会の定番ともなっていた。そして、これが全員で歌う最後の逍遥歌を合唱した。

緊張したのか声が胸に詰まり、掠れ声は悲しさと寂しさを錯綜したような響きとなって、会場を震わせていた。

二次会は、夫人達と別の部屋で行った。主に最近の健康面の状況に話しが集中した。

その時、夫人達の部屋から沖揚音頭の歌が流れて来た。長年、夫人の献身でリハビリに専念していた木村（順）君の声であった。私達は耳を疑いながら拍手を送った。

それにしても、酌を交わしている友は少なくなった。曽っての風景が消えていた。

外は、霧が濃くなって肌寒い空気であった。病気と斗っている佐藤君、安達孝男君、中垣君、安達欣市君等、彼らが元気になって同級会を再会しようと云ってくれたら、どんなに喜ばしいことかと思った。

最後に、それぞれの開催地の幹事長と函館の幹

事の皆さんに心から御礼申し上げます。



前列（左より）
　蛯子夫人、吉田夫人、内山夫人、川上夫人、木村（順）夫人、苅部夫人、荒井夫人
前列より二列目（左より）
　山内、内海、田村、花城夫人、寺田夫人、鈴木夫人、苅部
前列より三列目（左より）
　橋本、木村（洋）、内山、花城、伊藤、吉田、荒井、前田
後列（左より）
　鈴木、蛯子、稲村、川上、木村（順）、中森、寺田

北水二三製会「喜寿の会」に参加して

高橋日出彦（23セ）

前日の雨も嘘のように晴れ、すがすがしい初夏を彩る青葉の季節、平成16年６月16日朝、函館で夕刻から開催されるクラス会に向け病気療養中の小生に代わる家内の運転で札幌を出発した。

途中休み休みのドライブで午後３時には無事会場の末広町、旧金森百貨店（カナモリビル）を大改修し昔のままの外観で2002年に開業したばかりの近代的ホテル、ウィニングホテルに到着、早速宿泊室にチェックインした。部屋は函館港を眼下に見下ろす素晴らしいロケーション、遠い学生時代が思い起こされた。

５時過ぎ、４階ロビーでは代表幹事の木村（喬）や月津、森の３君が受付を開始しており、一瞥以来の挨拶を交わすうち全員集合、ホテル玄関前で記念撮影、定刻六時には全員席に着いたところで木村君から開会宣言と開催までの経過説明、そして当初出席を切望していた澤田芳治君が病魔に勝てず２・３日前に逝去、本日の同時刻に東京でお通夜とのショッキングな報告、昨年春亡くなられた清水一郎君を含め既に鬼籍に入られた多くのクラスメートに心からなる黙祷を捧げた。年々櫛の歯がこぼれる如く懐かしい盟友が黄泉に旅立つのは寂寥の感ぬぐえず、我々にも残る時間が刻々と迫りつつあることを実感した。今回出席出来たのは函館地区９名、他道内地区９名、本州地区12名の合計30名。他の大方の級友は健康上の理由で出席を断念せざるを得なかった由、曲がりなりにも今回参加出来た僥幸を噛み締めた一瞬でもあった。

宴は北晨寮逍遥歌、校歌、寮歌がバックミュージックとして静かに流れる中、何時もの会の様に皆五十数年前に還って、俺、お前の和気藹々に繰り広げられ、あちこちで笑いの渦が起こる。中には体調を慮ってか酒を口にせず静かに語らう者もいたが、常呂の新谷君や東京の臼田君などは若者を凌ぐ元気さ、それらの中を函館の行友君がビデオをまわし続ける。夕闇が函館港を包み始める頃、終宴も近づき、木村幹事から次回の開催を平成18年札幌地区当番と提案され、私から今までの経緯から受諾を宣言した。その後青森の宮野君から緊急提案があり、「二年後では待ちどおしい、この歳になれば一年とも云えないので、明年青森が担当して浅虫で開催したい」と、「青森は宮野、米沢君の二人のみなので俺達も手伝う」と同県出身の木村君や函館勢からも助け舟が出て、全員やんやの喝采の中に賛成可決された。８時半に名残を惜しみつつ一応閉会。９時から同場所で二次会が持たれ、大方が残って一夕を心置きなく楽しんだ。

翌17日も前日に引き続き快晴、10時からホテル前の西波止場に集合、港内を一巡するベイクルーズに20名ほど参加、陸から眺める函館とはまた一

味違った風景に一時間弱であったが一同大満足。下船後ホテルで昼食をとりながら団欒のひと時を過ごして、名残を残しながら、来年の再会を胸に、それぞれ帰途についた。ホテルに泊り込んでお世話を頂いた函館の幹事諸兄に深謝するとともに、このクラス会がまだまだ続くことを期待しつつ筆を置く。



前列左から
木村正昭、月増　寿、行友恭一、前田啓二、大田庸穂、池田吉晴、直江光昭、
中列左から
小南武朗、岡本栄二、高橋日出彦、山崎善種、宮野平三、塩越昭男、
後列左から
森　武彦、菅原祐平、寺坂　登、工藤　豊、芳賀次郎、鈴木慶典、堀越耕二、新谷淳治、臼田正臣、野村雅夫、八木義之、小野寺博、宮本栄昭、木村喬久、菊池和彦、森脇　淳、近岡成男

ー◆　追　　悼　◆ー

大先輩 今田先生(7ギ)逝く

前田　辰昭（26エ）



今年３月６日、函館在住今田先生のお嬢さんから今朝２時父が亡くなりました、という訃報を受けました（享年96歳）。

顧みますと先生は、斎藤市郎教授が北洋水産社長の故大西廉作先輩（大10ギ）から招請されて昭和35年に役員として転出され（当時の遠洋漁業学講座：上野助教授、前田助手、佐藤（旧姓野口）かの事務官）、後任教授として昭和39年に水産庁研究所から着任されました。以来、学科改編された漁場学講座教授として昭和48年まで、学部学生・大学院生の教育や大学運営に携わって来られました。

先生のご経歴については、去る３月８日の告別式における上野先生の弔辞から抜粋し、ご紹介します。

先生の父は秋田から札幌農学校教師として赴任され、長男今田清治氏が函館高等水産教授、次男が北大教授という教育一家の末弟としてお生まれになりました。昭和７年に北大水産専門部漁労科を卒業された後、北海道西海岸のニシン場や朝鮮で底曳網漁業やマイワシの巻網漁業等に従事され、召集されて陸軍に入隊されました。戦後の復員後は北海道水産試験場と水産庁研究所でニシンやサケ・マス研究に従事され、多くの研究業績を残されました。退官後には戦前から戦後のニシンの盛衰を纏められたニシン文化史（昭和61年）とニシン漁家列伝（平成３年）出版の貴重な北海道漁業文化史を残され、改めて先生の熱意と努力に敬服させられたものでした。

水産学部着任後の先生は、漁業研究は魚群生態と環境が基本であると話され、学生の教育や研究に熱心であったばかりでなく、学部の啓発にも貢献されました。

一方、ご家庭では雅子奥様の手料理で私達を招待され、時には講座職員家族で旅行をし、旅先でマージャンを楽むなど、親しくお付き合いをさせて戴きました（上野先生弔辞の一部）。

昭和48年に大学を退官された後は、函館の歴史的風土を守る会を主催され、北海道新聞を賑わし、市長賞を受けられるご活躍振りでした。その後、体調を崩されて奥様と同室で入院され、見舞いの度毎にお二人の強い夫婦愛を感じておりました。６年ほど前に現高橋教授の呼掛けで今田先生の卒寿、上野先生の喜寿、私の古希を祝う会が開かれ、三夫婦揃った席で、大勢の卒業生を前に先

生が車椅子から立ち上がられて、喜びと感謝のご挨拶をされました。

しかし、戦後の厳しい経済生活の中で、女性５人の一家を共働きで支えられた、最愛の雅子夫人に平成13年（87歳）に先立たれてからは落胆の毎日で、お会いするのもつらい落胆振りでした。幸い函館のお嬢さんや遠くのお子様達に励まされて立ち直られ、百歳を目標に頑張ると常々話され、入院中にサンタさんを演じ、入院患者を喜ばせたことを自慢されていたのを拝見していただけに急な訃報に接し、世の無常を感じた次第です。

私事ですが、昨年札幌に転出してお会いする機会も無いままでした。近いうちに函館を訪問してお会いしたいと思っていた矢先であっただけに残念でなりません。急逝のご連絡を受けて馳せ参じ、上野先生と安らかなお顔を拝顔して最後のお別れをさせて戴きました。

高木光造さん（16後セ）を悼む

上野　元一（16後ギ）

毎年５月末、東京有楽町のニュートーキョウで高水クラス会（七洋会）を開催することにしており、それに合わせて高木さんを訪れ昔話に花を咲かせる事にしておりました。今年（第23回七洋会）も丁度上京中、奥様より５月10日に急逝されたとの連絡があり、12日内輪だけの通夜、13日日本キリスト教会習志野教会で葬儀を行うとの事でした。余りの突然の事でお尋ねした処、食事中奥様が目を離した時喉に食物が詰まって窒息死されたとの事でした。習志野教会はＪＲ津田沼駅南口、マロニエ通りを歩いて15分位の処にあるこじんまりした教会でした。キリスト教の葬儀で平常歌われる高木さんの愛唱歌賛美歌312番も殊の外淋しく響きました。花に埋もれた高木さんに最後のお別れをした清楚な葬儀でした。

高木さんとのお付合いは旧函館中学校入学からでした。函館大火で高木さんの家も焼け出された昭和９年の事です。それから函館高等水産学校（現在の北大水産学部の前身）も一緒で16年卒業後高木さんは京都帝大に進学、第二次世界大戦敗戦後、再び母校水産学部勤務63才定年退職まで、更に高木さんが長男、学さんと市川市に同居移転されてから今年まで約70年に及ぶものでした。

こんなに長い期間交友が出来たのも高木さんの正直さと真面目な人柄そのもののお陰と思います。それだけ私にとってはなくてはならぬ大切な人だっただけに今回のお別れは一しお身にしみ応えてなりません。

高木さんは人知れず今日まで生きて来たその時々の思いを短歌に託していたのを奥様に見せて頂きましたが其内の二、三拾ってみたいと思います。

「コンドリンをユキより分離、結晶を顕微鏡下に見出せし喜び」

「貝毒に苦しむ漁民の身になりてボイル試験にひたすらなりき」

私は専門分野が違うので評価は出来ませんがアミノ酸の結晶を見つけた時の喜びようが目に浮かびますし、漁民の為にひたすら研究に励んだ姿とその成果に対する嬉しさが伝ってくる思いです。

「遠き日の憶いに耽り校庭（にわ）に立つ母校の勤め終りたる日」

「由緒ある水産学部更に更に飛躍を望む若き学究に」

停年退官の頃の思いがじーんと来ます。

最後に高水50周年記念文集を作った折、主に編集に携わって貰ったのですが、その中で“序にかえて”を書いて頂いたのでその一部に高木さんの気持ちが表れているので記してみたいと思います。

“世に運命という言葉がある。人の力ではどうすることも出来ない変化、成り行きとの意味であるが昭和16年12月卒の高水七期生は運命の狭間に苛まれ、それを潜り抜けてきた仲間である。その長い人生体験は様々であるが、卒業50年を機に文集を出そうかという話が俄かにまとまり発刊に到った。それが志半ばで斃れた級友への何よりの供養になると考えたからである。……”

これが鎮魂の言葉そのままであると思います。

御遺族　〒２７２－０８１２
市川市若宮１－９－５
高　木　澄　子（奥様）

平岩節先生（特）の死を悼む

坂本　有隣（29エ）

５月15日朝、奥様から電話があり、朝方先生が逝去されたとの知らせを受けました。先生には退職後しばらくして肺気腫を患い、入退院を繰り返しており、５月初めに函館市医師会病院に入院しましたが、15日朝奥様と娘さんに看取られて、最後のおわかれとなったそうです。享年82歳でした。

私は昭和25年水産学部遠洋漁業学科に入学し専門科目に進み、必修科目の地文航海学の授業のとき、初めてお逢いし、その後岩手県の宮古水産高校に就職していた私を、漁業航海学講座に助手として迎えて頂き、50年を超えるお付き合いをさせて頂きました。

私の学生時代の先生の思い出は、沢山ありますが、試験は大変厳しく、絶対出来なければ単位を頂けないので、皆先生の科目は一生懸命勉強したものでした。

先生は常に黙々と研究に、教育にと励んでおりました。ことに研究においては熱心で、共同研究で私がデーターを取りに船に乗るのですが、帰ってくるとデーターの数字を入れれば、論文が出来上がるように、用意して待って貰っていました。先生は何時も先の先を考えておりました。先生は算盤術にたけており、おまけにｓｉｎ．ｃｏｓ．ｔａｎの値を1°置きに覚えておられ、研究面で三角関数の絡んだ問題などは何時も先生が暗算した値が正しいか間違いか判断がつかず、私は「はあはあ」と言うのみでした。

先生は昭和19年神戸高等商船学校を卒業された後、昭和20年函館水産専門学校助教授として赴任しましたが、すぐ充員招集を命ぜられ軍務につき、同年召集解除、同年12月同校を退職しました。一時民間会社に勤務した後、昭和22年12月函館水産専門学校に奉職し、昭和26年北海道大学水産学部講師となり、昭和30年助教授に、昭和52年教授になり、昭和62年同大学を退職、同年名誉教授の称号を授与されております。

先生の研究の主なものは、船の航海における位置の測定に関するものでした。最適な位置の測定法とその位置の誤差を、従来定誤差で扱ったものを定量的に明らかにし、理論に基づきながら実用性を重視する研究を続け、航海の安全性に貢献しました。

また漁船が網待ち等で漂流するときの、気象条件、船の状態などを加味しその漂流方向、距離を統計的に求め、漁業における航海学の新分野を開拓しました。以上２つの課題で「漁船の位置に関する基礎研究」としてまとめられ水産学博士（北海道大学）の学位を取得しました。

この他針路、速力に及ぼす風浪の影響に関する研究等も航路選定、予備燃料の見積もりや船位の推定など航海の安全に寄与してきました。

昭和35年には「船位測定に関する一連の研究」に対して第１回日本航海学会賞を、昭和44年には「測定船位の基礎」により再び同賞を受賞しました。

「船位論」を昭和46年に出版し、航海における船位測定、誤差の基礎を作り上げました。

先生は大変お酒を愛でて、仕事の後、誘うといやとは言いませんでした。でも自分からは飲もうと言うことはめったにありませんでした。また飲むとマイクをなかなか離さず軍歌を歌われておりました。指導教官として練習船に乗船したときは、海上航海中は好きなアルコールを一滴もしなかったそうです。本当に自分自身に厳しい人でした。

航海学には切っても切れないノット（節）を名前にもち、その生涯を航海学のために尽力され、多大の成果を上げられ、先生もさぞ満足していることと思っています。

ここに謹んでご冥福をお祈り追悼の辞といたします。

会　員　死　亡　通　知

中村　　昇（17ギ）　昭和19年５月頃　　戦死
清水榮一（17ヨ）様より

滝井　和男（23ゾ）　平成11年12月30日　逝去
ご家族様より

阿部　　徹（52食）　平成14年８月27日　逝去
ご家族様より

須田新悦郎（30ギ）　平成14年９月12日　逝去
富田幸二（30セ）様より

川南不止夫（28セ）　平成14年12月28日　逝去
紺野哲郎（28セ）様より

石田　芳彦（22ギ）　平成15年５月12日　逝去
ご家族様より

佐藤　文三（28セ）　平成15年５月26日　逝去
ご家族様より

清水　一郎（23セ）　平成15年７月11日　逝去
木村喬久(23教セ)様より

吉田　　徹（17セ）　平成15年７月25日　逝去
添田　恒（17セ）様より

小串　次郎（９ヨ）　平成15年８月21日　逝去
ご家族様より

土岐　正彦(36特専)　平成15年８月21日　逝去
ご家族様より

番場　省二（24セ）　平成15年12月６日　逝去
長澤正徳（24セ）様より

高山　忠美（10ヨ）　平成15年12月19日　逝去
ご家族様より

多藤　省徳（14ギ）　平成15年12月19日　逝去
ご家族様より

尾崎　豈志（25ゾ）　平成15年12月12日　逝去
小林哲夫（25ゾ）様より

大場　信吉（15セ）　平成16年１月９日　逝去
ご家族様より

金道　守雄（24セ）　平成16年１月９日　逝去
木村喬久(23教セ)様より

松宮　敏彦（29セ）　平成16年２月７日　逝去
岡川　伸（29セ）様より

平田　寿雄（28エ）　平成16年２月８日　逝去
佐野典達（28エ）様より

今村慶一郎（23エ）　平成16年２月10日　逝去
本田光一（23エ）様より

石渡　四郎（19ゾ）　平成16年２月14日　逝去
目片徳治（33ゾ）様より

吉田　富治（20セ）　平成16年２月16日　逝去
髙山照之（20セ）様より

浅利　英二（15ギ）　平成16年２月24日　逝去
ご家族様より

五十嵐重四郎（14ヨ）　平成16年２月26日　逝去
ご家族様より

鳴海　　宏（20エ）　平成16年２月26日　逝去
髙山照之（20セ）様より

竹内　春道（18セ）　平成16年２月27日　逝去
目片徳治（33ゾ）様より

武隈　博志（56ギ）　平成16年２月27日　逝去
大西信幸（56ギ）様より

村上　和彦（24ギ）　平成16年２月28日　逝去
上野元一（16ギ）様より

今田　光夫（７ギ）　平成16年３月５日　逝去
高橋豊美（44エ）様より

小林五十雄（10セ）　平成16年３月17日　逝去
山内高博（55ギ）様より

遠野　孝雄(25教セ)　平成16年３月21日　逝去
ご家族様より

富田　　弘（10ヨ）　平成16年４月11日　逝去
ご家族様より

才野　雅男（28セ）　平成16年４月15日　逝去
吉田和夫（28セ）様より

中田　　淳（53ゾ）　平成16年４月18日　逝去
前田圭司（59ゾ）様より

高木　光造（16セ）　平成16年５月10日　逝去

伊藤　了一(26教セ)　平成16年６月７日　逝去
竹長公彦（34エ）様より

稲葉　栄生（38ギ）　平成16年６月12日　逝去
久保田正（37ゾ）様より

澤田　芳治（24セ）　平成16年６月14日　逝去
木村喬久(23教セ)様より

手塚　一世（29セ）　平成16年６月15日　逝去
岡川　伸（29セ）様より

兼子　　誠（７セ）　平成16年６月16日　逝去

	宮川芳明（25セ）様より
藤野　政彦（30セ）	平成16年６月21日　逝去 大阪府支部より
一柳　達正（14セ）	平成16年６月24日　逝去 御子柴正紀(14セ)様より
苅部準一郎（26ギ）	平成16年７月22日　逝去 吉田昭善知(26ギ)様より

ー◆　ご　案　内　◆ー

平成16年度
大阪府支部講演会・総会
および懇親会のご案内

大阪府支部　支部長　入江　和彦（45ギ）

本会を以下の内容で開催いたしますので、支部同窓会員を始め他支部の同窓の参加も歓迎いたします。なお、講演会は山内学部長にお願いしています。多くの同窓の参加を期待しています。

日　時：平成16年10月９日（土曜日）
　　15：30～19：30
会　場：トップラウンジ31
　　大阪市北区６－２－27
　　中之島センタービル31階
　　電話06-6445-1977
受　付：14：30～15：30
講演会：15：30～17：00
　　演題：「北海道大学水産科学研究科及び水産学部の将来展望」
　　演者：北海道大学　水産学部長
　　山内晧平氏（昭44、増殖卒）
総　会：17：00～17：30
懇親会：17：30～19：30　　懇親会費5,000円
　　北大グッズの抽選会など、楽しい催しがあります。
事務局：大阪市北区梅田１丁目10番
　　大阪駅前第２ビル２Ｆ　北大会館内
　　北水同窓会大阪府支部
　　mail address：hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp

新刊紹介　田口一夫著
『黒マグロはローマ人のグルメ』

永沼　博文（25エ）

著者の田口一夫氏（25エ）は鹿児島大学名誉教授、工学博士。航法システム、オメガ航法をはじめ電波航法の権威で、これらに関する著書は多数ある。今回出版の「黒マグロはローマ人のグルメ」は著者が鹿児島大学退官後の出版で２作目のもの。先に出版された『ニシンが築いた国、オランダ』と同様著者の専門分野から多少外れたもので、いわゆる専門書や論文集ではない。

しかし長年大学で研究をつづけてきた著者だけに、豊富な知識に加え、足による綿密な調査に裏付けされた極めて質の高い著作となっている。

主題は地中海における、ギリシャ、ローマ時代から、現代にいたるマグロを中心にした文化史であり、マグロ漁業の技術史である。

著者はイベリア半島から始まり、地中海各地を



現地探索、マグロ漁業に関する生産から加工そして食文化に至るまで、あらゆる分野の文献と絵画、陶芸品など資料の調査収集を行い、その集大成として壮大な地中海におけるマグロ漁業の実態を描き出している。

人名、地名の呼称などは文献に忠実に行なわれているため、実際読み進めていく上で多少なじめないところもあるが、こうした文化史が今日まで世に現れていなかったことに不思議さえ感じさせるものがある。（成山堂書店発行、四六判、320頁、定価2,730円）

ー◆学内ニュース◆ー

学位取得者と論文題目

〔北海道大学博士（水産科学）H16. 3. 25〕

課程博士

ｱﾝｿﾆｰ ｿﾘｱ ｲﾗﾉ：Reproduction, growth and feeding of Japanese whelk, *Buccinum isaotakii*（Kira,1959）（Neogastropoda: Buccinidae）in Funka Bay, Hokkaido, Japan（北海道噴火湾に生息するシライトマキバイの生殖と成長、摂餌に関する生態学的研究）

大島ゆう子：厚岸湾の栄養塩循環におけるベントスの役割の数値モデルによる研究

帰山　秀樹：Ecological and physiological features of pelagic ostracods in the subarctic Pacific Ocean（亜寒帯太平洋における浮遊性貝虫類の生理・生態学的特性に関する研究）

張　　弘碩：冷蔵倉庫産業の構造再編と経営行動に関する研究

中屋　光裕：函館湾におけるマコガレイ仔稚魚の捕食者としてのエビジャコ *Crangon uritai* の時空間分布と摂餌生態

ﾊﾄﾘｼｱ ﾛﾋﾞﾝ ﾘｸﾞﾋﾞｰ：Ecology of immature octopus, *Enteroctopus dofleini*: Growth, movement and behaviour（ミズダコ亜成体の成長、移動および行動に関する生態学的研究）

三好　　潤：船舶航行時の主船体操縦流体力および操縦運動の推定

和田　雅昭：海中転落者のための救助システムに関する研究

片山　　茂：MoleculAr mechanism of solubility improvement of fish and shellfish muscle proteins by reacdon with reducing sugars（糖装飾による魚介類筋肉タンパク質の水溶化とその分子機構の解明）

小林　秀誉：水系における高度不飽和脂肪酸の酸化機構に関する研究

斎藤　大樹：魚類の生殖系列キメラ作出に関する実験発生学的研究

佐藤　　良：海洋生物資源の複合利用による魚類筋肉タンパク質の高機能化に関する研究

東野　敏及：Studies on the endocrine control mechanism of early oogenesis in fish（魚類卵形成初期の内分泌制御機構に関する研究）

藤島　裕典：細菌由来ホスファチジルグリセロールの立体構造に関する研究

ﾓﾊﾒﾄﾞ ﾏﾊﾌﾞﾌﾞｰﾙ ﾗﾏﾝ：Studies on the distribution, virulence properties and detection of a newly identified species *Aeromonas* sp. T8 group（エロモナス属新菌種Ｔ８グループの分布、病原性ならびに検出法に関する研究）

会　員　異　動

（平成16年１月１日から７月30日）

定年退官

16．3.31　西田　清義　生命資源科学専攻
（38セ）　応用生物科学講座

16．3.31　烏野　慶一　環境生物資源科学専攻
（特）　生産工学講座

16．3.31　見上　隆克　環境生物資源科学専攻

平成15年度進路状況一覧

（　）は女子の内数　ＭＣ：大学院修士課程
ＤＣ：大学院博士後期課程

水産海洋科学科

ヤマサ醤油㈱	１名
札幌市役所	１（１）名
松田産業	１名
㈱乗馬クラブクレイン	１（１）名
㈱日本通運	１名
北海道漁業協同連合会	１（１）名
北海道新聞	１名
北海道庁	１（１）名
ＭＣ北大水産科学研究科	16（８）名
ＭＣ北大地球環境科学研究科	４名
ＭＣ北大国際広報メディア研究科	１（１）名
ＭＣ東京大学農学生命科学研究科	１（１）名
北大水産学部研究生	１（１）名

海洋生産システム学科

ＣＧＣジャパン	１名
ＩＭＳ	１名
いなば食品㈱	１名
カネシメ高橋水産㈱	１名
クレードル興産㈱	１名
(独)さけ・ます資源管理センター	１名
フーズシステム㈱	１名
㈱光通信	１（１）名
札幌市役所	１名
札幌通運㈱	１名
青森県庁	１名
第一貨物㈱	１（１）名
ＭＣ北大水産科学研究科	15（３）名
ＭＣ北大地球環境科学研究科	２名
ＭＣ北大工学研究科	１名
ＭＣ東北大学生命科学研究科	１名
ＭＣ九州大学総合理工学府	１名
ＭＣ筑波大学大学院	１名
日本福祉学院	１名

海洋生物生産科学科

㈱ＤＴＳ	１（１）名
ＮＥＣソフトウェア北海道	１（１）名
デイジー食品工業	１（１）名
㈱ニチレイ	１名
㈱ニチロ	１（１）名
愛知県庁	１名
札幌低温運輸㈱	１（１）名
小樽水族館公社㈱	１名
昭産商事	１名
㈱石原商店	１名
大阪府警	１（１）名
大東化成工業㈱	１（１）名
第一水産㈱	１（１）名
日本メナード化粧品㈱	１（１）名
日本製粉㈱	１名
富士通アドバンストソリューションズ	１名
北海道エア・ウォーター㈱	１名
ＭＣ北大水産科学研究科	38（14）名
ＭＣ北大地球環境科学研究科	１名
ＭＣ京都大学農学研究科	１名
ＭＣ東京大学農学生命科学研究科	２（１）名
ＭＣ愛媛大学農学研究科	１（１）名
早稲田大学理工学部３年編入	１（１）名

海洋生物資源化学科

㈲ＦＬＰジャパン	１（１）名
ゲノムサイエンス研究所	１（１）名
㈱ダイヤモンドシティ	１名
㈱学育社	１（１）名
極東高分子㈱	１名
県立香住高等学校	１名
財務省	１名
札幌市農業協同組合	１（１）名
小川香料㈱	１名
㈱進学会	１（１）名
全日本空輸㈱	１名
㈱東和電機製作所	１（１）名
㈱苫小牧臨床検査センター	１（１）名

日本ベーリンガーインゲルハイム　1名
日本食研㈱　1（1）名
㈶日本食品分析センター　2（1）名
㈱弁釜　1（1）名
北の誉酒造㈱　1（1）名
六花亭製菓㈱　1名
ＭＣ北大水産科学研究科　32（12）名
ＭＣ北大地球環境科学研究科　2（1）名
ＭＣ北大医学研究科　1名
ＭＣ京都大学農学研究科　1（1）名
ＭＣ奈良先端科学技術大学バイオサイエンス研究科　1（1）名
北大水産学部研究生　1名

水産科学研究科修士課程

ＪＦマリンバンク　1名
ＮＥＣ日本電気㈱　2名
アースサポート㈱　1名
アサヒビール㈱　1名
㈱エコニクス　1名
オムロンヘルスケア㈱　1名
キリンビバレッジ㈱　1（1）名
クノール食品㈱　1（1）名
㈱クレードル興業　1名
（独）さけ・ます資源管理センター　1名
㈱ちよだ鮨　2（2）名
㈱トヨタテクノサービス　1名
㈱ナトリ　1名
㈱ニチレイ　1名
㈱ニチロ　1名
㈱フジトラベルサービス　1（1）名
ユニ・チャーム㈱　1名
㈱ロツテ　1（1）名
愛知県中学校　1名
愛媛県中学校　1（1）名
愛媛県立宇和島水産高校　1名
旭川大学高等学校　1名
岡山県庁　1（1）名
花王㈱　1（1）名
㈱環境建設エンジニア　1名
岩見沢社会保険事務所　1名
㈱興人　1名
㈱極洋　1（1）名
今治造船㈱　1名
㈱札幌オフィスコンピュータ　1名
札幌ドーム㈱　1名
（財）札幌市企園緑化協会　1（1）名
三井農林㈱　1（1）名
宗教法人　1名
新潟県水産海洋研究所　1（1）名
新潟県立海洋高等学校　1名
㈱西友　1（1）名
中外製薬㈱　1名
㈱鳥羽水族館　1（1）名
東京ＭＸテレビ㈱　1名
東京サラヤ　1名
日本ＬＣＡ㈱　1名
日本オフィスシステム㈱　1名
日本農産工業㈱　1名
日本放送協会　1名
日立システムアンドサービス　1名
㈱日立製作所生産技術研究所　1（1）名
日鐵建材工業㈱　1名
函館五稜郭病院　1名
菱友計算㈱　1（1）名
富士通㈱　1名
北海道信用漁業組合連合会　1名
明治乳業㈱　1名
緑書房　1（1）名
ＤＣ北大水産科学研究科　22（6）名
ＤＣ京都大学農学研究科　1名
ＤＣ京都大学工学研究科　1（1）名

水産科学研究科博士後期課程

三栄源エフ・エフ・アイ㈱　1名
（独）水産総合研究センター　1名
青森県庁　1名
道立衛生研究所　1（1）名
函館どっく㈱　1名
北海道庁　1名
（独）日本学術振興会特別研究員　3（1）名
水産科学奨励会研究員　2名

有朋自遠方来不亦楽呼

（平成16年１月～平成16年７月）

（敬称略）

多様性生物学講座（旧浮遊生物学講座）

尾﨑浩司（平６修増）1/3、浅見大樹（60ゾ）1/26、宮園　章（58ゾ）1/26、雑賀　修（53ゾ）2/2、山田雄一郎（平９ゾ）3/1、6/29、河村章人（37ゾ）3/31、6/10、小山章夫（42ゾ）5/7、小川法章（29ゾ）5/25、村井和明（59ゾ）7/6、小針　統（平８修増）7/12、山田　智（58ゾ）7/26

資源環境科学講座

齋藤正子（平12海）3/26、赤羽敬子（平14海）7/2

資源計測学講座

木和田広司（平12ギ）4/1、永山滋也（平15海）4/20、笹岡晃征（平８ギ）4/28-30、高橋文宏（平９ギ）7/17

応用生物科学講座（旧微生物学講座）

宇賀神光夫（47食）7/12、高橋寛昌（平13海）3/11、島崎梨絵（平16海）6/4、7/26、生地　暢（平６食）6/16

応用生物科学講座（旧水産高分子化学講座）

井上　晶（平５化）4/10、久保田千春（56化）5/21、安藤　理（59化）5/24、池田正之（59化）5/6、横本敬紀（59化）5/21、千葉　智（平元化）5/21、樋口智之（平10化）4/28、上山惟太（平11資）5/21、太田知克（平11資）5/21、川端　暁（平11資）5/21、佐藤　愛（平13資）5/21、清水映里（平13資）5/21、竹谷祐平（平13資）5/21、6/24、土居哲平（平13資）5/21、6/19、福田美樹（平13資）5/21、三橋晃一（平13資）5/21、横谷　亮（平13資）5/21、堤　輔（平15資）5/21、6/25、鈴木貴洋（平15資）6/25、藤本和宏（平14資）7/28

応用生物科学講座（旧食品化学第一講座）

菅野貴司（平15資）1/23、島谷達也（平11資）2/20、大河内千鶴（平14資）2/23、市岡建司（60食）2/23、三枝亜希子（平14資）3/20、門田裕香（平15資）5/21、中秋勝彦（52食）5/25、十河和明（56食）6/7

生物資源化学講座（旧魚油化学講座）

原　貴幸（平13資）7/17

生物資源化学講座（旧化学工学講座）

田中　彰（平４化）1/20、赤嶺健一（61化）6/3

水圏食糧科学講座（旧生物化学講座）

佐藤　真（平３食）1/8、阪本正博（53食）1/27、渡辺直哉（56食）2/6、高田早苗（61食）3/12、東　由美子（平６食）3/24、福田直子（平13資）4/10、鳥貝　真（平３食）4/23、早川和徳（平13資）5/11、金子健一（平14資）5/11、松原　久（58金）6/25、國見　吏（平15修生）6/26、長谷川智人（平10食）7/21、坂本幸造（48食）7/22

表 紙 写 真 説 明

今号の表紙写真は、平成16年３月に大学院水産科学研究科に新築になったマリンフロンティア研究棟です（２階建て延べ約1000平方メートル）。この施設は学内の共同研究や大学と企業との共同研究を推進し、新産業の創成や地域産業・経済の活性化に貢献することを目的に建設されたものです。函館市が平成15年８月に国の構造改革特区に認定された「マリンフロンティア科学技術研究特区」の中核となるものです。この特区は内閣府としても注目しており、金子地域再生担当相も平成16年３月27日に学部を視察に訪れました。この施設利用に関連する北海道内外の17企業から共同研究の申し入れがあり、今年度から利用を開始しています。内閣府からも動画として、函館市の構造改革特区について配信されていますので、ぜひご覧下さい（ＵＲＬは＜http://www.gov-online.go.jp/index.htm＞です。）。例えば、海洋生物の特殊機能の開発、海洋生物有効成分の機能性

の解明、道南地域水産科学シーズの分析、海中生物観察用超音波カメラの開発研究、北海道産物の安全性確保に関する研究など函館地域の優位性を生かした水産・海洋分野の研究機関と連携を図りながら共同研究を推進します。

函館市は、構造改革特区以外にも昨年度から今年度にかけて「地域再生計画『函館国際水産・海洋都市構想の推進』－水産・海洋に関する学術・研究拠点都市の形成－」（内閣府）、「都市エリア産学官連携促進事業（函館エリア）」（文部科学省）など各種の地域活性に向けた取組みが認められ多様なプログラムが開始されています。いずれも水産科学研究科・水産学部が学術研究の中核をなします。同期会を函館で開催の折は、ぜひお立ち寄り下さい。



《編集後紀》

今夏の函館は４年ぶり30℃を上回り、20年ぶりに５日連続の真夏日があるなど久々に暑い夏になりましたが、７月中旬には水産科学研究科が21世紀ＣＯＥプログラムに採択されるというホットなニュースも舞い込んできました。今回の「親潮」283号ではＣＯＥのことも含め水産科学研究科・水産学部と北水同窓会の最近の動向と将来展望を同窓の皆様にご理解いただくために、山内研究科長（近況報告）、猪上新幹事長（幹事長就任にあたって）、中尾前幹事長（定期総会を終えて）にそれぞれ執筆をお願いいたしました。今後も母校の新しい動きを「親潮」や北水同窓会ホームページを通じて皆様にお伝えしたいと考えております。また本号では３編の寄稿を掲載できました。このうち大園氏の原稿については紙面の都合上、編集部でかなりの改訂を行いましたことをご理解の上、ご容赦下さい。

昨年度から「親潮」は年２回の発行になりました。今年度第２号（通算284号）の原稿締め切りは平成17年１月15日を予定しております。会員の皆様には「親潮」に多くの原稿を寄せていただくようお願いいたします。

（編集幹事　矢部　衞）

親潮投稿規定

１．掲載文の種類と文字数などの制限

⑴ 会員の受賞：本文880字以内

⑵ 寄　　稿：本文5,280字以内
なお、この制限以上の長文あるいは連載希望の寄稿文については３号分までとする。

⑶ 支部・会員だより：本文1,760字以内
なお、弔文については代表者一名に限る。

⑷ ご　案　内：本文880字以内

⑸ そ　の　他：掲載の可否および文字数の制限については編集部が決定する。

発　　行　平成16年８月30日
編 集 兼　猪上　徳雄・阿部　周一
発 行 人　矢部　　衞・安藤　靖浩
発 行 所　北海道大学水産学部同窓会
（TEL/FAX 0138-42-3681）
Ｅﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：hokusui@hotweb.or.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ：http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp
印 刷 所　三秀印刷 TEL.23-6663 FAX.27-5135

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長　石　川　栄　一

〒030-0183　青森市卸町１番１号
鮮魚１部　TEL　017(738)1281
鮮魚２部　TEL　017(738)1281
冷凍部　TEL　017(738)8221
塩干部　TEL　017(738)5511
加工部　TEL　017(738)6581
企画部　TEL　017(738)1281
管理部　TEL　017(738)1181
E-mail：Comment@aochuu.co.jp
ホームページ：http://www.aochuu.co.jp



人工魚礁による
水産資源の保護・増殖に
貢献します

海洋土木株式会社

http://www.kaiyodoboku.com
本社：東京都中央区銀座3-8-13
TEL：03-3561-3051

代表取締役　鉢木和三(38ゾ)
常務取締役　真田篤弘(43化)
青森営業所長　青山禎夫(39ゾ)
北陸営業所長　中道五郎(39ゾ)

食品工場、厨房内の
自主検査のお手伝いをします。

★HACCP・ISO導入指導及び検証の評価・改善指導
★食品の微生物検査　★施設類・道具・器具類の拭き取り検査
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト
★食品の賞味期限の設定　★保存テストのデータ蓄積
★その他衛生指導、社員教育などの御相談をお受けします

株式会社　**キュー&シー**

代表取締役　奥野和弘（昭和42製造）
松原　伸二（昭和62化学）　久保　雅俊（平成12資源）
分析室　〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7
☎(011)786-8300 FAX(011)786-8266

豊富な実績と万全な体制でさらに前進をつづけます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD

株式会社 中山薬品商会

代表取締役社長 中 山 浩 一

本　　社 〒040-0064 函館市大手町９番１８号
PHONE（0138）23-6275･FAX22-8098
釧路営業所 〒084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3
PHONE（0154）52-4101･FAX52-4103
http://city.hokkai.or.jp/~nakayama/

営業種目 船舶艤装用品並各種船用品全般・諸機械・工具類
塗　料　・　帆　布　・　ロ　ー　プ
（海運局公認、膨張式救命いかだサービスステーション）

北海道大学水産学部 おしょろ丸 うしお丸 連絡事務所

北 海 道 船 用 品 株 式 会 社

取締役社長 伊　藤　大　介
支 店 長 唐　戸　幸　一
所　　長 伊　藤　陽　介

本　社　室蘭市海岸町3丁目3番5号　電話0143㈹㉒1321番
支　店　函館市弁天町２５番２号　電話0138　㉓0721番
FAX0138　㉓5420番
営業所　苫小牧市汐見町1丁目2番2-106　電話0144　㉟2601番

㈲山本食品研究所

山　本　　巌
山　本　律　彦

〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地
ＴＥＬ（0770）２３－０２９７㈹
ＦＡＸ（0770）２４－２８８２
E-mail y-f-labo@aqua.hokuriku.ne.jp

札幌市中央卸売市場卸売業者



髙橋水産株式会社

取締役社長　髙　橋　松一郎

〒060-8671　札幌市中央区北12条西20丁目1-10　電話　618-2111番

URL：http://www.kaneshime.co.jp

住所変更届け用紙

勤務先・自宅等に変更が生じたときは必ずご連絡ください。
連絡は電話、FAX、E一mail、郵送のいずれも可です。
切り取ってご利用下さい。

卒業年次	昭 平　　年	（漁・遠・製・食・化・養・増・特専 海・シ・生・資）科卒	
フリガナ 氏　名		フリガナ 旧氏名	
現勤務先	勤務先及び部署 役職 〒　　T　　F 所在地		
現住所	〒　　T　　F 自宅住所		

送付先：
〒041-8611　函館市港町3丁目1番1号
北海道大学水産学部北水同窓会
電　　話　0138-42-3681
F A X　0138-42-3681
Eメール　hokusui@hotweb.or.jp

02 函館

払込取扱票

通常払込料金
加入者負担

口座番号 （右詰めにご記入ください）

0	2	6	2	0	＝	5	＝					5	8	1

金額 ※ 千 百 十 万 千 百 十 円

料金 特殊取扱

加入者名 北水同窓会

通信欄 ※ 本会々費は4,000円です。勤務先等お書き下さい。

昭・平　卒業　学科　年度分　受領書　要・不要

払込人住所氏名 ※ （郵便番号　　）

（電話番号　－　－　）

受付局日附印

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

切り取らないで郵便局にお出しください。

払込票兼受領証

口座番号 0 2 6 2 0 ＝ 5 通常払込料金加入者負担

右詰めにご記入ください

5 8 1

加入者名 北水同窓会

金額 ※ 千 百 十 万 千 百 十 円

払込人住所氏名 ※

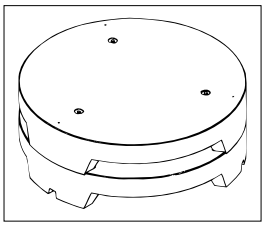
料金 （消費税込み） 円

受付局日附印

特殊取扱

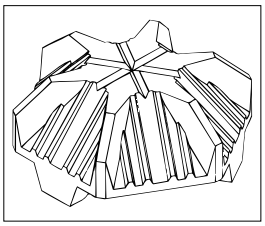
未来への海づくりを考える

円形セピア



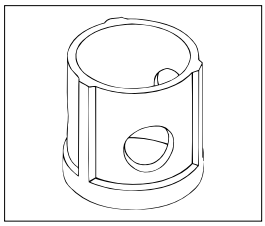
・ヤリイカ産卵場造成

マリノプランテーション



・多目的藻場造成

3.0円筒型魚礁



大型魚礁
人工礁 造成

共和コンクリート工業株式会社

代表取締役社長　本間丈士
水産開発部技術顧問　田中毅（昭44増殖）
水産開発部顧問　吉田康夫（昭36遠漁）
水産営業部長（青森支店駐在）　足助光久（昭40増殖）

本社　〒060-0808 札幌市北区北８条西３丁目28番地（札幌エルプラザ11階）
TEL（011）736-0204　FAX（011）736-0205

ニチモウ

海に、陸に、世界に――常に新しいシステムを追求する。

自然を生かし、地球をたいせつにするニチモウ。

ニチモウ株式会社

取締役社長　井垣昭

札幌支店　札幌市中央区北3条西3丁目1-25（札幌北3条第一生命ビル）　電話011（261）3101
本　社　東京都品川区東品川2-2-20（天王洲郵船ビル）　電話03（3458）3020
支　店　仙台・大阪・福岡
営業所　釧路・八戸・名古屋・四国・境港・下関・長崎・天草・鹿児島
URLアドレス：http://www.nichimo.co.jp/

吉原法律事務所

弁護士・海事補佐人　吉原 美智世

（昭和48年増殖学科卒業）

《業 務 内 容》

法律問題に関する紛争処理（交渉・訴訟・調停）・
企業法務・会社の再建・倒産処理・会社顧問・
交通・労災・医療事故・行政事件・刑事弁護・
相続・遺言・自己破産・個人再生
（法律相談30分5,000円）

☎　011−622−7963
ＦＡＸ　011−622−8414
札幌市中央区大通西20丁目2番20号　道新円山ビル8階
交通　地下鉄東西線西18丁目駅1番出口
E-mail　yosihara@sapporo-law.com